

令和3年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	21340201	アグリフードシステムと農学	233	136	58.4	4.00	8割以上の学生が、総合的に考えて現在この授業に満足している（強くそう思う、そう思う）と回答しており、また、その他の評価項目も概ね科目群平均と同水準である。これらの点から、特段の問題点はみられない。	毎回担当者が変わるオムニバス形式の講義であるためか、学生と教員とのやりとりの双方向性は科目群平均よりもやや低かった。次回講義での改善点である。	
2	21340202	分子細胞生物学	232	126	54.3	3.82	230人程度の人数の受講者で、リレ形式の授業であるため、全員が満足出来る授業を提供するのは難しいが、昨年の改善希望（資料を事前に配布してほしい、オンラインの不具合等）についての意見はほぼなかったため、うまく改善できたのではないと思う。	次回も今回同様、試験方法や授業の進め方等は先生間で相談して統一し、事前のアナウンスをまっちりすることで、オンライン授業でも対面授業であっても差が出ないよう、少しでも有益な情報の提供を心がけて授業を行いたいと思う。	テストが不適切だという意見が出ているが、教員側は全くそう思っていない。リモート試験を十分に配慮の上で実施した。
3	21341301	昆虫機能学	42	27	64.3	3.62	学生と教員とのやりとりには双方向性があった。授業の難易度は適切であったか、の項目に対する評価が、それぞれ、3.0、3.3と低かった。	今回の講義においては、学生との双方向性を高め、学生がより理解しやすい講義内容に努める。	
4	21341302	作物学各論	33	22	66.7	4.49	全ての項目について、科目群平均を上回っていた。対面講義ーオンライン講義ー対面講義と変更し、イレギュラーな形となったが、概ね本講義の目的は達成できたと考える。	例年に比べると「授業内容に発露されて、関係することを自分で学習した」の項目評価が低い為、対面講義ができれば、実際の作物等を展示しながら説明することで、少しでも興味を抱くことができる工夫を実施したい。	
5	21341303	園芸資源植物学	46	32	69.6	4.02	シラバスの学習目的、授業での学ぶべき重要な目標を明確に示すという点では多くの学生から高い評価を得た。しかし、学生と教員とのやり取りに双方向性があったかという問いには多くの学生がそうは思わないと回答していた。これはコロナ対策としてオンライン（オンデマンド形式）で講義を行ったため、教員から学生への一方的な講義となったことに起因する。本講義の総合的な評価が4.3であったことから学生は本講義に満足していたと思われる。	できる限り対面での講義を行って教員と学生のやりとりにも双方向性を持たせたい。	
6	21341304	天敵微生物学	41	27	65.9	4.19	本年度の授業は、第2回目までを対面で、それ以降は昨年度と同じくオンデマンド型の遠隔で実施した。アンケート回収率は65.9%と、全体の回収率（49.3%）を大きく上回り、Moodleコース内の複数箇所でのアンケートへの回答を促したことが功を奏したと思われる。アンケートの10項目のうち9項目で、科目群平均値と同じか、またはそれ以上の値を示した。特に項目「共-60」では、科目群平均値を0.4上回った。毎回受講生から疑問・質問を受け、その回答を纏めてファイルとして配信したことで、オンデマンド型に少しは双方向性をもたせることができたようだ。遠隔授業ではあったが、概ね良好な評価を得たと考える。	PowerPoint及びその配布資料について、内容を適宜改訂しながら、より充実したものを目指す。また引き続き、受講生の興味や関心を引くような説明を心がけ、受講生の学習意欲向上にも繋がるよう努めたい。	特になし。
7	21341305	生物的防除学	45	28	62.2	4.29	コロナ対応のため前年度はオンデマンド式の講義としたが、これが不評であった。今年度はオンライン形式にし、かつスマホ上でも見やすいスライド資料を作成し、双方向性を持たせるような講義をした。その結果、7項目で平均より高く、特に注意を払った双方向性に関する項目は4.5ポイントと平均の3.7を大きく上回った。次年度がオンライン形式になるかは不明だが、この調子でやっていきたい。	シラバスをさらに充実させることとmoodleのより効果的な活用を進めていきたい。	
8	21341306	園芸科学各論	53	31	58.5	3.69	アンケート回収率は59%程度であった。シラバスの学習目標の明確性（共-51）、授業の準備の程度（共-68）、授業の難易度（共-221）および深い内容への学習意欲（共-221）は比較的良好な評価がなされていた。やりとりの双方向性（共-60）は評価が低い項目であり、特に改善が必要である。	評価が低かった項目は、リモート形式への対応が十分でなかったことも要因と考えられる。来年度にリモート形式で実施する場合には、改善するように留意しながら取り組んでいきたい。新型コロナウイルスの感染拡大防止が可能な状況であれば、従来通り、対面で講義を実施する予定である。	
9	21341310	応用昆虫学	54	33	61.1	4.45	ほぼすべての項目において、担当講義の評価は科目群平均を上回っていた。とくに「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の評価は科目群平均3.7に対して4.3であり、評価が特にか高かった。今期は、新型コロナウイルスの影響で対面ならびにオンラインによる講義を混用して行ったが、なるべく双方向性の授業となるように大幅な改善を行った結果と思われる。	令和2年度のe-learning方式を改め、対面ならびにオンラインによる授業を行ったことから科目群平均をすべての項目で上回ることができた。今後も対面ならびにオンラインを適宜混用しながら、自主的な学びにつなげられるような学習指導を行っていく。	
10	21341311	植物育種学総論	31	23	74.2	3.29	共通項目：2020年度同様に、農学研究院の科目群平均(4.09)を0.8ほど下回る評価結果(3.29)であった。前年の2.96より0.3ほど向上したが、農学研究院の科目群平均も0.2ほど上昇しているため、この上昇分は一般的なオンライン授業への対応力の向上によるものと推察される。2020年度から2021年度にかけて、農学研究院の科目群平均が0.1から0.2向上してオンライン授業の授業スキルの改善効果が見られる一方で、当該講義については、10項目中5項目が上昇（上昇幅：0.1から0.2）したものの、5項目が減少（減少幅：0.8から0.2）と散々な結果であった。特筆すべき問題は、「教員の説明はわかりやすかったか（インストラクション）」と「教員は、授業に十分準備して臨んでいたか」の2項目でいずれも2点台であった。加えて、「教員は、授業に対して熱意を持っていたか」と「この授業についてより深く学びたいか」のスコアは前年度に比べてそれぞれ0.6、0.5と減少しており、当該講義のオンライン授業実施上の問題点が露呈していた。 自由記述欄：2020年度自由記述欄で指摘された問題点については、（1）授業内容が難解、（2）説明が不良、（3）授業管理上の問題点、（4）遠隔授業への準備不足の4点に集約された。これに鑑みて、2021年度の授業向上対策として、（I）難解さの克服、（II）説明力の向上、（III）オンライン授業のスキルアップを目標に掲げて、授業改善に取り組んだはずであった。 本年度自由記述欄には、（1）授業内容が難解と（2）説明が不良の改善のための努力の跡は見られたものの、（3）授業管理上の問題点と（4）遠隔授業への準備不足については、致命的な欠陥が指摘されたものとなった。 （I）難解さの克服 （II）説明力の向上：Zoom画面に講義室の黒板を映して板書する方法はある程度効果を取めたと思われる。ただし、何回も消さないといけないので、一覧性を担保するには限界があった。 ※続きは、「その他」欄に記載。	2020年度の授業評価書の「次回講義への対応（2021年）」については、（I）難解さの克服、（II）説明力の向上、（III）オンライン授業のスキルアップを目標に掲げた。2021年度は、これに加えて「この授業についてより深く学びたいか」（学修意欲）を触発するべく、授業を工夫する必要性を認めた。学修意欲には、教員のインストラクション（授業準備）や授業者の特徴（熱意）が密接に関連すると思われるので、Negativeな印象を与える要因については、これをできる限り排除するように努める。 その上で、「2022年度の授業への対応」については、（I）難解さの克服、（II）説明力の向上、（III）オンライン授業のスキルアップ、（IV）学修意欲の啓発に努める。具体的には、以下の通りである。 （I）難解さの克服 板書による説明、情報を制限しない豊富な資料の提供 （II）説明力の向上 難解かもしれない豊富な資料の根拠強い読解と理解に努めるサポートを惜しまないこと （III）オンライン授業のスキルアップ 要検討 （IV）学修意欲の触発 適切な授業準備と受講生目録のPBL活動の実践	「講義内容は面白く、黒板への記述も動きがあって集中力が途切れづらかったので良かったです。」「オンラインでも、授業で黒板を使った説明だとメモもしやすく理解しやすかったです。」 （II）オンライン授業のスキルアップ オンライン授業のスキルアップ以前に「渋滞に巻き込まれて所定の授業実施場所に到着できなかった」ことで、（3）授業管理上の問題点を指摘されることとなった。また、講義室におけるオンラインソフトの運用に問題があって、しばしば適正な授業環境を担保できなかったことは、（4）遠隔授業への準備不足を指摘される結果となった。「オンライン講義の際の開始時間の遅れが気になったので、開始時間が遅れるのであれば、他の講義でもするように「10:50から開始します」など定めてほしいです。」「いつ授業が始まるのかわからず、毎週授業開始時刻から15～30分待たないといけないのがとても困りました。10:30に間に合わないのなら、事前に何時開始、と通告してほしいです。」「授業内容や進め方についてはそんな気にならずわかりやすかったが、授業の開始時間がばらばらだったり連絡がなかったりしたことが気になった。」「授業開始が遅くなる場合は、事前に伝えていただけたらとありがたいです。」「毎回通りに始まらなかった。機材等の準備に時間がかかるなら前もって準備する、もしくは10:45から始めるなど前もって決めてほしい。」「いつ始まるかわからず、パソコンの前で待機する無駄な時間があった。」「授業開始がいつも15分程度遅れており、残念でした。」「ネット環境が悪いのか予告なく遅くすることが多かった。待機の時間が無駄だったので遅れるなら連絡してほしいです。」「
11	21341312	植物生産生理学	46	34	73.9	4.07	概ね良好であった。学生に起因する事項以外は平均より上であった。	上記の問に対する評価が上がるように取り組む。	「難易度が適切」という設問では、優しすぎるのか、難しいかわからない。
12	21341313	植物病理学総論	33	24	72.7	4.07	オンラインのため双方向性の講義があまりできなかった。興味を持てるような講義内容でなかったところが指摘されている。	できる限り双方向性の講義を実施する。また講義内容を興味を持てるものにする。	
13	21342301	灌漑工学	29	12	41.4	4.16	概ね良好であった。	テキストの文字が少し小さかったという指摘があったので、改善することになる。	なし

令和3年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回回数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
14	21342302	回帰分析入門	32	14	43.8	4.41	評価項目の多くが4.5前後であり、比較的良好的な評価であった。一方、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」が4.0、「この授業内容についてより深く学びたいか」が4.0であり、低い評価であった。方法論を教えるだけでなく、この学問分野の魅力や、学生の意欲を引き出す工夫が必要である。	学問分野の魅力や、学生の意欲を引き出す講義を模索する。学問分野の発展の歴史や、学んだ内容の実社会での応用などを講義に少しづつ取り入れていく予定である。	
15	21342305	排水工学	22	10	45.5	4.30	各項目の平均値は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.6（昨年4.1）、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.8（昨年4.1）、「授業の難易度は適切であったか」=4.4（昨年3.9）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.4（昨年3.5）、「教員の説明はわかりやすかった」=4.5（昨年4.0）、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.7（昨年4.2）、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.4（昨年4.2）、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=3.8（昨年3.6）、「この授業内容についてより深く学びたいか」=4.0（昨年3.8）、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.4（昨年4.0）、以上であった。	今年度は昨年度と同様の遠隔授業で、予め作成した講義ビデオをオンデマンドでストリーミング配信する形式としたため、『「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.4（昨年3.5）』は致し方ないと考えている。それ以外は、昨年度より改善しており、心配していたほど悪くはない評価であった。しかしながら、過去の経験から、全く同じ環境で、全く同じ内容の授業をしていても、年度によって授業アンケートはかなりばらつく傾向があるため、昨年度と今年度の比較のみで、授業改善の成果を判断することはできない。加えて、来年度も遠隔授業であれば別であるが、授業アンケート結果の授業改善へのフィードバックは難しい。	特になし。
16	21342306	農業気象学	38	14	36.8	3.81	昨年と同様の講義をしたにも関わらず、難易度とわかりやすさで低評価であった。講義の方法と学生の年度による個性と両面が要因と考えられる。	講義の難易度は下げずに、理解力を高める方策を検討したい。	
17	21342308	構造力学Ⅱ	19	7	36.8	4.17	今年度の授業アンケート（授業評価）の回収率は36.8%となり、前年度（50%）よりかなり低くなった。今年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染防止のために9回の授業がオンライン授業となったが、前年度（対面授業：1回、オンライン授業：13回）より対面授業は多かった。前年度の授業評価結果と比べて、共-211（授業の難易度は適切であったか）や共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）、共-221（この授業内容についてより深く学びたいか）の項目については、農学部開講科目の平均値はほぼ同じであったが、本授業の評価値は低下した。特に、共-3の項目については、低下量が大きかった。この結果は、学期末試験結果や課題レポートの提出状況・解答内容などから判断すると、先行授業で取り扱われる断面力なしの基礎的事項の理解が十分できていないことが起因しているようだ。授業評価結果では、農学部開講科目の平均値より数値が悪かった項目は共-211、3、221の3つであり、これら以外の項目の評価値は4.3以上であったことから、授業内容や授業方法については概ね支持されていると判断した。なお、共-60（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）についての評価値は、農学部開講全科目の平均値（3.7）よりかなり（0.6）高かった。学期末試験結果や授業の出席状況、課題レポートの提出状況・内容などから総合的に判断すれば、今回の授業評価（授業アンケート）結果は、（回収率は十分とは言えないが）授業の実態を的確に反映していると評価した。	今年度をもって本授業（講義）は終了となったため、次回の講義への対応なし。	特になし。
18	21342309	環境分析化学	31	24	77.4	4.13	授業アンケートで科目群平均より高かった項目は、「シラバスの学習目標は明確だった」教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」「教員の説明はわかりやすかった」「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」であり、授業内容についての評価は高かった。一方、科目群平均より低かった項目が、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」「この授業内容についてより深く学びたいか」となり、発見的な学習意欲を引き出すことには、課題が残った。	講義内容、演習問題の設定、授業のやり取りは維持しつつ、学生自身の経験と関連付けられるような話題を取り入れ、より興味を持てる内容に改善していきたい。	
19	21342313	水理学Ⅱ	18	9	50	4.20	質問10項目のうち7項目で、「4：そう思う」と「5：強くそう思う」のポジティブ回答が8割を超えており、昨年度と同程度の評価を受けた。とくに、本講義の満足度に関する評価値は4.3であり、科目群平均点が4.1であったことから、受講生にとって意義が高く、かつ分かり易い授業を提供できたと考えられる。担当科目は数物系科目である。農学部学生において数物系科目は不得意とされ、かつ気嫌いされる科目であるなかで、本科目は受講生にとって満足のいく科目であったと分析することができる。本年度は、新型コロナウイルスの影響により、講義内容の説明動画の配信によるオンデマンド式に変更したが、これに対する不満はなく、高く評価されたと判断している。「学生と教員とのやりとりには双方向性があったか」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「この授業内容についてより深く学びたいか」についての評価が3.6程度であり、他の項目と比べてやや低い評価を受けた。例年は4.0以上の評価を受けていた。本年度では、新型コロナウイルスに緊急事態宣言の発出により、講義内容の説明動画の配信によるオンデマンド式に変更したことが大きく影響したものと考えられる。	主体的な学修と学修意欲についてより高く評価されるような講義内容を考えたい。具体的には、治水・利水の観点から実際の現場でどのように役に立つ専門科目であるのかを明確に示し、とにかく学生が興味をもつような工夫を考えたい。	
20	21342314	土質理工学Ⅱ	21	8	38.1	4.23	授業評価（授業アンケート）の回答率は38.1%となり、前年度（50%）よりは幾分低下（悪化）した。今年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染防止のため、8回の授業がオンライン授業となったが、前年度（対面授業：1回、オンライン授業：13回）より対面授業はかなり増加（7回実施）した。各項目に関する本授業の評価値（平均値）、農学部開講科目の平均値共に、前年度の授業評価結果とほぼ同じ（数値・傾向）であった。授業評価結果は、共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）、共-221（この授業内容についてより深く学びたいか）以外の項目の本授業の評価値は4.1以上であり、かつ農学部開講科目の平均値より何れも高いことから、授業内容や授業方法については概ね支持されているようだ。特に、共-60の項目の本授業の評価値（4.3）が農学部開講科目の平均値（3.7）より高かった。一方、主体的な学習や学修意欲に関する質問項目（共-3、221）の数値（本授業の評価値、農学部開講科目の平均値共に）が、他の項目よりかなり低いことが心配である。	今回の授業評価結果などを踏まえて、授業内容や教え方などの継続的な改善に努めたい。例年通りであるが、タイムリーな話題や現場（実務）の問題を授業で取り扱うことによって、授業（内容）に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。また、各授業時に授業のテーマ・目標を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答などを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めるように心がけたい。授業評価（アンケート）については、回収率向上のための工夫・改善を図りたい。	特になし。
21	21342324	農村計画学	20	15	75	4.64	「この授業内容についてより深く学びたいか」（4.3）以外の項目はすべて4.5以上であった。ZoomやMiroなどのアプリケーションを用いて、オンラインでグループワークに取り組む内容であったため、受講生が主体的に取り組んでくれるのが重要なポイントであったが、概ね好評だったので安堵している。	オンラインでのコミュニケーション能力は、今後、社会でますます求められると考えている。オンラインコミュニケーションは経験（慣れ）が必要であり、本講義ではそのような機会を学生に与えることも目的の一つとしているため、新型コロナウイルス感染拡大の有無に関係なく、今後も本講義ではオンラインでのグループワークを実施する。	
22	21343302	生物生産機械学	10	4	40	3.57			
23	21343303	農産食料工学	10	4	40	4.06	全アンケート項目において科目群平均と大きな差は認められず、総合的に良好な結果であった。ただし、アンケート回収率が低いことから提出を促す必要がある。	内容については現状を維持していきたい。	

令和3年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
24	21344301	食料農業農村政策学	16	10	62.5	3.90	科目群平均を馬綿野がシラバス学習目標、双方向性、授業者熱意、筆禍他のが毎回授業目標、難易度、主体的学修だった。シラバスによる全体目標と構成はうまく伝わったが、毎回の強調点はやや伝わりにくかった。自由記述で講義毎回のミニレポートへのフィードバックが非常に好評だったことが双方向性の高評価に反映していると考えられる。	以上の分析をふまえて、全体講義設計、熱意を持った講義とミニレポートへの丁寧な対応は持続しつつ、毎回講義ごとの強調点をより明示化して到達目標を学生と共有しつつ、難易度を調整していく対応をしていく。	
25	21344302	農業経営学	18	10	55.6	4.26	以下の評価項目において、履修者全員（100%）が、「強くそう思う」「そう思う」と回答しており、評価は高い：シラバスの学習目標は明確だった。学生と教員とのやりとりには双方向性があった、教員の説明はわかりやすかった。教員は授業に対して熱意を持っていた。総合的に考えて現在の授業に満足している。オンライン授業（MS Teams、Moodle）を活用し反転学習的な授業としたことが、90%の履修者が「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」を「強くそう思う」と回答する結果になったと思われる。	学生の学習意欲と理解度をさらに向上させる工夫をしたい。	
26	21344303	食料産業組織論	15	8	53.3	4.28	ほぼすべての項目において農学部の平均を上回っており、総じて高い評価を得ることができた。特に、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」「教員は、授業に十分準備して臨んだ」「教員は、授業に対して熱意を持っていた」という項目の評価が高かった。一方、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」という項目の評価が低かった。	総じて高い評価を得ることができたので、今年度の授業内容等を来年度も踏襲したい。評価が低かった項目については、どのような工夫ができるか、試行錯誤を重ねたい。	
27	21344304	食料流通経済学	18	8	44.4	4.34	前任者から引き継いで1年目の授業であったことから、試行錯誤で講義方法や各回の講義内容を決定したが、授業評価では概ね科目群平均を上回っており、大きな問題はなかったと考える。難易度については、やや難しいものが含まれていたため、その中で「難易度」についての評価がやや低かったものと思われる。	本講義は3年前期であるが、次年度受講生は2年次のカリキュラムがこれまで一部異なるため、この点も踏まえて難易度の再調整を図りたい。また、講義内容については、継続してブラッシュアップを図ってきたい。	
28	21344305	環境経済学	15	9	60	4.23	評価10項目中、平均以上が評価項目が9項目あり、学生の評価は良好な講義であったと言える。特に、学修マネジメント（学生と教員との双方向性）について、平均3.7に対し本授業は4.4であり、相対的に高評価であった。他方、唯一平均以下であった学修デザイン（毎回、授業で学ぶべき重要な目標を明確に示した）については、今後の課題としたい。	授業で学ぶべき重要な目標を、毎回、授業の最初に時間をとって、明確に示したい。	
29	21344308	農業構造論	18	8	44.4	4.26	学修デザインおよび学修マネジメントに関する項目は平均を上回ることができ、学習目標、授業難易度、やりとりについては、事前の講義準備が綿密に進めた効果が出ていたように考えられる。その反面、主体的学修と学修意欲に関しとの値が平均を下回っており、講義内容の面白さをうまく学生に伝え切れてないという問題点を把握できた。これは昨年と同様の結果を得ていたため、来年度の講義においては、時代に即したトピックや学生に身近なテーマも盛り込み、学生の関心を向上させる工夫を行いたい。	「4」に記載済み。	
30	21344310	食料貿易論	18	15	83.3	4.02	10項目中、学部平均と比較して、±0.1ポイント以下が6項目、0.2ポイント以上が2項目、0.2ポイント以下が2項目であった。学部平均より0.2ポイント以下の項目は、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」と「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」であった。特に前者は、昨年度に学部平均を唯一下回った項目であり、改善を目指したが、学部平均を上回るには至らなかった。また、総合的に判断すると、本授業への評価は、学部平均とほぼ同じであったと考えられる。	講義中に簡単な演習を行い、各自が理解度を確認できるようにするなど、学生が一方の知識伝達と感じないよう改善を行いたい。	
31	21344311	食料マーケティング論	18	9	50	3.40			
32	21344312	生物資源経済論	16	9	56.3	4.15	評価項目10項目中、科目群平均以上の項目は6項目あり、平均に満たない項目でも0.1ポイント低いだけであるので、概ね問題ない評価と思われる。特に、「教員とのやり取りは双方向的であった」の科目群平均は3.7に対し、本科目は4.3、また「教員は、授業に対し十分準備して望んでいた」も科目群平均は4.4に対し、本科目は4.6と相対的に高い評価を得ていた。次年度は、科目群平均に満たなかった項目について、改善して行く予定である。	「教員の説明はわかりやすかった」という項目については評価がやや低かったため、今回の講義ではわかりやすい授業になるよう心がける。	
33	21345303	生物物理化学	37	16	43.2	4.49	「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」以外の項目は高い評価であったので、この点が改善すべきと考える。	関連することを自分で学習することを促すために、講義では説明しない関連情報を講義において提示する計画である。	
34	21345304	有機化学Ⅱ	33	13	39.4	4.15	対面講義は一度のみで大部分はオンライン講義であったが、学生はよく講義を聞き、意欲的に取り組んでいたと感じます。課題も良く取り組めていました。質問はメールでのやり取りがほとんどでしたので、双方向性が低かったと分析します。	対面講義を実施できれば、双方向性も書く日できると考えられます。	
35	21345305	生物化学各論Ⅰ	40	16	40	4.33	アナウンスはしたもののアンケート回答率が40%で低いが、内容については全体的に高評価であったといえる。学生にとって有意義な授業を提供できたのではないかと思う。	全てオンライン授業ではあったが、結果として学生にとっていい授業ができたと思う。今後もオンライン・対面授業どちらであっても、学部として必要な生物化学の講義に加え、何か有益な情報の提供を心がけて行う。	
36	21345306	発酵微生物学	128	61	47.7	4.27	オンライン授業2年目で資料などは昨年ほぼ作成していたので、今年はそれほど準備に手間はかからなかった。全体的には受講生に満足してもらっているようであるが、小テストが実施できなかったため、どの程度理解が深まったのかは不明な点もある。	来年は対面でもできるように思うので、学生と対話をして理解度を確認しながら授業を進めたいと考えている。	
37	21345307	生命情報科学	38	33	86.8	3.52	オンライン講義を呼びなくされたが、例年のように本授業内容をもれなく講義することができた。まず、回答率39.5%と低く、本講義の授業評価の告知が不十分であった。概ね各項目で科目群平均より上回っていた。しかし、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」については、平均点を下回り、得点も3.6点と低かった点が懸念点である。他にも、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」は3.9点と十分な評価が得られなかった。	今年度で退職し、本授業は今年度で終了のため、該当しない。	
38	21345308	土壌・環境微生物学	38	15	39.5	4.22		来年度では、講義内で周知を十分にするまたは授業評価回答の時間を設けるなどとして、回収率の向上を目指す。双方向授業ができるように、レポート内容を発表してもらうなどの工夫をする。さらに、自主学習できるためのポイントをしめていきたい。	
39	21345309	農業化学	40	17	42.5	4.28			
40	21345310	植物生理生化学	38	16	42.1	4.22	回収率が全体平均より僅かに低かったが、40%以上あるのでアンケート結果に学生の意見はそこそこ反映されていると見受けられた。全ての評価項目で、全体の平均を上回っていたため、概ね問題ない授業が行えたと考えている。	来年度も本年度と同様に授業に臨みたい。	
41	21345311	遺伝子工学技術論	41	19	46.3	4.37	やりとりの双方向性以外は平均より高く、全体的に評価が良かったので、学生にとって有意義な授業を提供できたのではないかと思う。	この講義はカリキュラム再編後の来年度からなくなる。後継の講義がない。	これまでのアンケートで「講義内容に興味を持ちさらに学びたい」との意見が多く分野教育として有意義と思う。また、学生実習項目との連携でも、講義の必要性を感じている。
42	21345317	栄養化学	43	18	41.9	3.44	双方向性の項目、理解度が低いが、質問欄を設けている。しかし、質問してくる学生は少なく機会を利用していないだけではないか。	カリキュラムが変わるので、テストの方式を変えます。	

令和3年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
43	21345318	食糧化学	38	14	36.8	4.04			
44	21345320	食品衛生化学	36	14	38.9	4.35	学生のアンケート結果は昨年度までとほとんど変わらない。今年は対面および遠隔での実施となったが、総合評価としての満足度は4.6で科目群の平均よりも0.4高かった。内容的には、今後に役立つものと学生も理解はしている。教科書を指定しており、学問分野への興味もわいているようだが、講義自体が、食品衛生監視員の任用資格取得のための講義の一つであり、講義の最後に毎回、Moodle上で質問を書かせ、回答を作成してMoodle上にアップし、次回の講義の始めに回答して問題点認識とその解決の共有化を図っている。この質問への回答は毎年、好評である。記憶しなくてはならない部分が多いため、考える力や調べる姿勢の獲得にはつながらにくいと思われる。内容を削ることは困難なので、シラバスにも授業計画として教科書に対応した講義項目を記載して予習を促している。今年は遠隔での講義のため、毎回、小テストを行って理解度の確認に努めたことは学生にも評価されている。学生は対面での講義を望んでいる。	できる限り授業時間中に話す内容の精選につとめ、進行もゆくりしたいが、食品衛生監視員の任用資格取得のための講義の一つであり、内容が多く、半期の講義では完全に解説できる内容量ではない。内容を削ることは困難なので、学生に予習、復習の徹底を促すことにする。毎回の質問への回答は継続する予定である。内容が多いため、1回の講義で1つの項目を終わることが困難であるが、次回も同様に内容を精選し、講義の範囲、テーマの明確化、成績評価基準の明示を心がけた。双方向性については、質問を書かせ次回回答しているが、これは比較的评价されているようであるので継続する。さらに可能な限り内容の絞り込みを検討したいと考えている。	
45	21345332	食品工業分析学	35	13	37.1	4.09	双方向性ありとの評価であり、授業目的に合致する結果といえる	特に無し。	
46	21345333	単位操作第二	45	18	40	4.25	アンケートの回収率が40%と低く、周知が足りなかった。この回収率ではあるが、ひとつの項目を除いていざれも科目群平均よりも高得点だったことから、良い講義だったと思われる。自由記述も、オンデマンド資料がわかりやすいというコメントがあった。	比較的良好な結果だったが、本講義は今年度で終了となり、来年度は講義名が変更され、新たに内容を見直すことになっている。今回までの講義を参考に、あらたな講義に活用していく。	
47	21345405	生物統計学	40	21	52.5	3.86	前期の栄養化学と違って、選択必須ですので、興味のある受講者しかいない状況で、評価が高かった。	カリキュラムが変わりますので、別の講義方法を模索したいと思います	
48	21346302	森林保全砂防学	28	11	39.3	3.95	全体的に科目群平均程度の評価であった。ただし学習デザインの学生と双方向性については平均よりかなり下回っていた（平均3.7に対して）、これは講義方式が初回を除いて全てオンデマンド方式にしたことも影響していると考えられる。	特に学習デザインの双方向性に留意しつつ全体的な講義の向上に努めていく。	
49	21346303	森林政策学	33	11	33.3	4.49	満足度4.6でどの項目も科目群平均よりも高かった。主体的学修（共-3）が3.9と4を上回った他より評価が低かった。また、回収率が33.3%と低かった。	まずは、修学した学生にアンケート協力を呼びかける。オンラインと対面併用での授業の場合、学生の主体的な学びを促すように、学生発表やチャット機能などを用いるような工夫を行う。	
50	21346304	造林学	23	8	34.8	4.15	各評価項目は概ね科目群平均と同等の値であった。より深く学びたいという項目が平均3.9に対して、4.3とやや高い値となっており、講義準備については問題がないことを示していると考えられる。一方で学修デザイン2項目や熱意に関して平均を下回ったことは今後の改善点として考える必要があることを示している。	特に、学修デザインに関しては再考すべき点であり、講義の組み立てを含め、本講義の目標の明確化を図る必要があると考えられる。	
51	21346305	植物代謝制御学	36	12	33.3	3.93	多くの項目で平均か、平均を下回った値が示された。特に、学修マネジメントや講義への準備状況で大幅に下回り、講義への準備不足を露呈する結果を示していた。	学修マネジメント、学修目標などを含め講義に対する準備の強化の必要性があると考えられる。	
52	21346306	木質資源理学	31	8	25.8	3.59	シラバスの評価は4.2と高い水準であった。授業の目標も明確であると学生から評価された。	このまま継続していき、わかりやすい説明を目指す。	
53	21346307	森林化学	13	2	15.4	4.75	解答回収率が15%と低いため、分析結果が学生の評価を代表するとは言えない事を前提として、解答した者の評価は総じて高く、教員の意思が伝わり抗議内容に興味を持って理解してもらえたと考えられる。	まずは、評価アンケートへの回答をしてもらおう、複数回の依頼をすること。 2021年度以上に丁寧な説明と理解状況の把握に努めること。	
54	21346308	木質材料工学	32	16	50	4.02	授業の内容については、平均、もしくは、高い評価を得た。ただ、学修の意欲の面でやや低い。	本授業にもともと興味のない学生の回答もあるかと思われるが、今後とも興味のある分野としての内容を付加・協調する必要がある。	
55	21346309	生物資源化学	31	9	29	4.36	専攻教育科目に相応しい高水準の「生物資源化学」について、単なる情報の伝達ではなく、科学的事象の本質・根本理解に重点をおいた講義を実施した。本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面講義をほとんど行うことができず、大部分をオンラインライブ講義（Zoom利用）で実施した。スライド講義資料を事前にMoodleで配信し、講義後もMoodleで追加資料を配布することで、理解度の向上に努めた。教員2名で多糖材料化学から森林微生物工学まで幅広く講義し、全項目で科目群平均を上回る高い評価を得た。特に、各授業の到達目標の設定、説明のわかりやすさ、熱意は高評価であった。「全く好きじゃなかった有機化学や生化学を勉強したい気持ちになった」、「この分野がこれから主役になりそうな気がして興味もてた」、「対面でも授業を受けたかった」など、好意的な意見が多くあった。オンライン講義でも、比較的良質な講義を提供できたと考えている。例年行ってきた中間試験・期末試験は今年も実施できず、レポートでの評価となったため、分野・研究室配属後に適切に補講する必要があるだろう。	コース配属学生の約8割30名が受講し、非常に意欲的な姿勢で授業に臨んでいた。最初に本講義の概要・位置付けを説明し、重要箇所を繰り返し説明する時間を取った。Zoom講義では一方的になりがちなので、途中でこまめに質問を行い、確認テストやノート提出（写真画像）などで理解度を確認しつつ進めた。Zoomのホワイトボード機能をつかった板書講義も実施し、できるだけ対面と同じ効果が得られるように工夫した。それでも、化学構造の立体モデルなど対面でない説明が難しい部分はあった。授業評価の回収率は一昨年度でほぼ100%であったのが今回は29%に留まり、授業評価の意義を丁寧に説明し、回答を促す働きかけを要する。次年度こそは、ポストコロナの「新しい日常・生活様式」に則った「対面講義」が行えるものと考えているが、この間に培ったオンライン講義の良い部分を残しつつ、さらに良質な講義を提供できるように努めたい。オフィスアワーの利用学生はいなかったが、Moodleのメッセージ機能でのやり取りなど、新しい方法を取り入れて個々の学生のフォローアップを充実させたい。	
56	21346310	高分子材料科学	18	6	33.3	4.19	評価がとくに高かった項目は、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」「教員は、授業に対して熱意を持っていた」「総合的に考えて、現在の授業に満足している」である。一方、評価が相対的に低かったものは「授業の難易度は適切であったか」である。	評価が高かった項目は引き続き維持していきたい。難易度については、難しいと感じた学生が多かったようだが、すでにかなり基礎的な範囲に内容を絞っているため難易度を現行以上下げる予定はない。	
57	21346311	バイオマテリアル科学	15	6	40	3.84	特段問題ない。	指導者の必要だと意図することを受講生に伝える。	
58	21346312	環境生物学	40	15	37.5	4.50	総じて評価が高かった。前半がリモート、後半が対面での実施となったが、昨年度の経験を踏まえて、柔軟かつ適切な開講ができたと判断される。	受講学生に、講義対象分野への興味を引き起こすような工夫を加えたい。	
59	21346313	森林水文・水資源学	29	9	31	4.06	学習目標の明確さと、授業者の特徴では比較的高いスコアを得たが、授業の難易度と主体的学修に課題があった。	授業の難易度に関しては、試験時間に対して問題数が多かったことが一つ原因であったと考える。次年度は、問題数と難易度を担当教員内で話し合っ決めてとともに、試験前に復習の時間を設けるなど、授業構成も工夫する。また、主体的学修に関しては、社会的問題への応用などのテーマを増やし、学生の学習意欲を高める工夫をする。	
60	21346314	森林資源管理学	29	10	34.5	4.44	担当教員が複数名参加しゼミ形式で実施したため、授業の双方向性（学修マネジメント）と教員の熱意については4.9ポイントと高く、満足度も4.6と平均よりも高かった。4.5未満の評価が3項目（シラバスの学習目標の明確化、授業の難易度、学習意欲、教員の授業準備）であった。	4.5未満の評価項目について、シラバスの明確化、使用教科書の検討、教員の授業準備について改善をはかる。	

令和3年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
61	21346321	森林計画学	28	8	28.6	4.22	全体的に科目群平均と同等のスコアであった。相対的に評価がよかったのは、「双方向性」についてであり、グループディスカッションを複数回実施したり、Moodleコメントへの返答を毎回行っていたことがよかったものと判断する。「熱意」については若干評価が低かった。	回収率が28.6%（8件）と少なかつたため、学生への依頼を徹底したい。評価の高かった「双方向性」については、グループディスカッションやMoodleを有効利用しながら次回も伸ばしていきたい。若干評価が低かった「熱意」については、もう少し強弱をつけて講義に臨みたい。また、「学修意欲」を引き出すため、魅力的な課題を与えていきたい。	
62	21346342	森林工学	26	7	26.9	4.19	アンケートの回答数が少なかったものの、昨年度と比べると「強くそう思う」を選択した学生が多かった。ただし、コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、オンライン講義を主としたため、「学生と教員とのやりとりには双方向性があつた」については「そう思わない」を選択した学生もいた。	コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、防止対策を講じた上で、できる限り対面講義を主とし、学生の反応を見ながら講義を開講する。	
63	21347301	動物生殖生理学	21	7	33.3	4.46	担当講義の点数はほぼ全てで科目群平均を上回っており、概ね良好であったと思われる。学生と教員とのやりとりに双方向性（学修マネジメント）が3.6と唯一平均を下回ったが、来年度の対面授業で挽回したい。	回収率が33%と極めて低かった。コロナ禍のリモートによる講義であり、回答させることを失念していた。来年度はアンケートの回収率は上昇するよう徹底的にアナウンスを行いたい。	
64	21347302	家畜生体機構学	20	7	35	3.53	授業の難易度、双方向性、説明のわかりやすさに対する評価が科目群平均を大きく下回る結果であった。新型コロナの影響でオンライン授業を行った時期は事前に録画していたビデオ映像を視聴してもらう形式で授業を行ったため、双方向性については十分ではなかったことは否めない。難易度については、本科目が基本的に知識の習得を行うことを目的としたものであるため、こちらが提供したい情報量と受講者が処理できる情報量との間に乖離があつたのかもいずれ、期末試験の成績も軒並み低いものであつた。ただ、こちらが求める学修レベルを下げることは、学部生の到達度を低く設定することでもあり、その良し悪しについては判断が難しい。授業内容がシラバスに明記している教科書、参考書の範囲を超えることはなく、その点では学生の学生の学修を期待するところではある。授業の満足度については高くも低くもなかったことは、授業内容が最先端の研究内容の紹介ではなく極めてベーシックな基礎知識の習得を目指すものであることも影響しているように思われる。	自由記述欄に1名の学生から「授業資料に図と名称しか載っていないことが多く、膨大な語句が出てくる一方で語句の重要度はよく分からなかったため苦労した。どのような定義で区画されるのかやその部位の機能まで資料に載せて頂けると有難いと思った。また、オンライン開講の分は、教科書を読んでいるような解説が多く、音声から漢字が想像できない難しい言葉も多いと感じた。授業進度が速すぎたので、重要な点をピックアップするか2学期に分けるなどして欲しい。」とのコメントがあつた。限られた時間内でできるだけ多くの内容を紹介することを旨とした授業内容であつたが、情報量が多すぎて受講者が追いついてこれない点があつたかもしれない。今回の講義では難易度を大幅に下げたことを検討してみる。	
65	21347303	動物発生学	17	6	35.3	3.54	全般的に授業の難易度が高いとの意見が多く、進行速度も早いと感じられたようである。授業に集中して臨めていなかったような意見もあつた。	授業時間外での質問を促し、学生の理解度を高めるほか、小テストを実施し、学生の集中を高める。	
66	21347304	動物性食品製造学	23	13	56.5	4.36	授業評価回収率は56.3%と低調であつた。いずれの評価項目も科目群の平均値を上回っていることから、標準的な講義であつたと評価される。「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」、および「教員は、授業に対して熱意を持っていた」に対しては特に高い評価が得られていることが、学生の満足度の高さの要因になっていると考えられた。	授業評価回収率の向上に努める、具体策としては、定期試験の前に授業評価を実施することを予定している。	特になし
67	21347305	家畜飼養管理学	18	15	83.3	4.14	履修登録者18名中、15名の回答であつた（83%）。昨年の完全オンライン下では40%の回答であつたが、今回は後半授業が対面であり、授業時間中にアンケート回答時間を設けたため、回答率が高かつた。全項目を通して平均点は3.8~4.4と比較的高く、1（全くそう思わない）を回答した学生は0人、2（そう思わない）を回答した学生は1名のみ（主體的学修項目）であつた。特に高い評価の項目は「教員は授業に十分準備して臨んでいた」（平均4.5）「教員は授業に対して熱意を持っていた」（平均4.4）であつた。一方で、「授業内容に発表されて、関係することを自分で学習した」（平均3.6）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があつた」（平均3.8）、「この授業内容についてより深く学びたいか」（平均3.8）であつた。これらの項目の低さは農学部全体の平均にもあてはまる。本年度の授業は前半がオンライン、後半が対面であつたため、両形式のメリット・デメリットが混在したと思われるが、「総合的に考えて、現在の授業に満足している」の項目は平均4.3と高く、概ね適切な授業が実施できたと思われる。	アンケート回収率は8割を超え、一昨年度の対面授業中に行った場合と比べても高くなっている。次回以降も最終授業で余裕をもった回答時間を設定し、回答しやすい環境を整える。双方向性や自主的な学修触発は、オンラインでも対面でも、講義形式の授業では改善に困難がともなう点である。対面時やオンラインで質問コーナーを設けても、学生側からの質問はほぼなく、教員からの一方方向の発信になりがちなので、レポート課題への個別コメント返却などの方法が有効かもしれない。	
68	21347306	動物遺伝育種学	17	6	35.3	4.52	アンケートの得点は全てで科目群平均を上回っており、コロナ禍のリモート講義ではあつたが概ね良好であつたとと思われる。主體的学修が唯一3.8と4以下であつたが、競走馬の育種や遺伝改良など社会的に興味を持つ内容を取り入れる必要性を感じる。	アンケートの回収率が35.5%と極めて低く、もっと徹底してアナウンスをし、回収率の向上に努める必要がある。	
69	21347320	水産資源学	21	10	47.6	4.56	各項目について平均を上回っていた。10項目のうち、2項目が4.8、3項目が4.6となり、比較的高い数値であつた。一方で、アンケートの回収率が47.6%と高くはないことから、回収率を上げる工夫が必要であると感じた。	途中でオンラインに切り替えたり、ハイブリッドにしたりと予定通りに行かない面もあつたが、今回は準備して対応したい。	
70	21347321	魚類免疫学	20	10	50	4.57	すべての項目において、4.3以上と平均を上回っており、オンラインの授業が多かつたにも関わらず、学生に全体の内容を理解してもらえたかと思う。また、「授業に対して熱意を持っていた」「授業に十分準備して臨んでいた」という項目が4.8であり、熱意が伝わつたかと思う。質問に答えていただいで感謝しているとのコメントもあり、毎回受けつけた質疑の解答を次回の講義までに必ず準備することができたことがよかつたと考えている。	「主體的学修」の項目が他と比較し低かつたので、もっと身近な事象を例に挙げて説明する。アンケートの回収率が50%しなかつたので、授業アンケートについて何度も周知する。	
71	21347323	海洋微生物学	24	20	83.3	4.28	質問項目の中で、「シラバスの学習目標は明確だった」と「授業内容に発表されて、関係することを自分で学習した」という項目が科目平均を下回っていた。	シラバスの内容を再確認するとともに、授業の関連分野に興味をもってもらえるような授業内容となるようにしたい。	
72	21347325	水産生物環境学	21	10	47.6	4.54	コロナでリモートせざるを得ず学生の理解度がつかめなかつたが、教科書を読んで行う演習をしたあと、授業で解説するスタイルを取った。学生も一生懸命対応してくれた。4回ほどの発表と討論を行い、発表する力をつけたと思います。評価は4.3-4.8と全て平均を超えており、良い評価をしてもらったと思います。	さらに、工夫を重ねてより良い授業にしたい。	
73	21347327	藻類学	25	13	52	4.34	担当講義のうち科目群平均を下回つたのは「授業の難易度（4.1 vs. 3.9）」のみで、結果には概ね満足している。授業の難易度の結果を評価する際、適切だったとは思えないが回答者13名中2名いたが、難しすぎるのか、簡単すぎるのかの判断がつきにくく、アンケート項目の選択肢を改善していただきたい。	本講義は令和3年前期で終了し、令和3年秋学期からクォーター制度の元、新しい科目へと変更される。担当講義数（コマ数）が変わるため大幅な内容変更を伴うが、講義対象が3年生から2年生に変わるものもあるため、基礎的な部分を講義に盛り込みたい。また、評価点が4.5以上となるよう、主體的学修、学修意欲が向上するよう、実用的な話題も盛り込みながら講義内容を考えたい。	アンケート調査の回収率が低すぎるので、学生への周知を徹底します。

令和3年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
74	21349001	Technical Communication 1	10	2	20	4.8	全ての項目において平均を上回っていたが、履修者に対し回答者が2割であったため、評価の客観性を高めるためにも回答率を高くする必要があると感じた。ほぼ満点であった中で、シラバスに記載の学習目標は明確であったや、双方向の講義ができてきているについては5点であったのに対し、教員の説明はわかりやすかったや教員は、授業に十分準備して臨んでいたが、どちらかというところだった（4点）にも評価が入っていた。	最終講義で学生に対し評価を行う依頼をしっかりと行い、回答することを促すことを心がける。オンラインで行ったため、しっかりと説明が理解できているか確認できない部分もあったことから、理解できているか確認しながら講義を行うなどより配慮をしたいと思う。	
75	21349005	Introduction to Bioresource and Bioenvironmental Sciences 2	10	2	20	4.5	本科目は通常科目と違って、学生が2グループに分かれ、それぞれ約30箇所の研究室を訪問し、自らの体験研究室に関する情報を得る。30箇所のスケジュール調整がコーディネーターが行い、必要に応じて各研究室の担当者から連絡を受け取る仕組みとなっている。そのため、共-60の評価が4であったと考えられる。	短時間で複数人間の調整はかり、授業を運営することが最も重要なアクションであるため、現行の調整方法を維持する予定である。しかし、できるだけ、早い段階で調整内容を学生と共有すること、また、すでに共有している各研究室の担当教員の連絡先を用いて学生から自由にコンタクトが取れることお再度周知することで共-60の改善を図る予定である。	
76	21349007	Analytical Chemistry	10	2	20	4.65	Responses to all questions were positive in the range 4-5, apart from 1 student who was neutral about wishing to learn more of the subject. However, response rate to survey was lower than average at 20% so it may not be represent the views of the whole class.	Try and improve the response rate to the survey.	
77	21349009	Population Biology and Ecology	11	2	18.2	4.8	アンケートの回収率が低く評価が難しいが、ほぼすべての項目で高い満足度を得た。講義録画を事前に作成、編集し配信することで、講義内容が対面と変わらぬ質で伝えるように努め、効果は得られたと思われる。授業に対する熱意を伝えることもできたようである。	対面でアンケート記入時間を設けて、アンケートを回収することで、アンケートの回収率を上げるように努力する。毎回、授業内容の要点についての小テストを行うことで、理解力が高まったと思われるので、引き続き何れの授業形式に関わらず続けていく。	
78	21349014	Introductory Biochemistry	11	2	18.2	4.35	アンケート回収率が低いと正確性には問題があるが、満足度について4.5、また個別9問の回答平均がいずれも4以上であることは評価できると考える。一方、授業の難易度、学修デザインについて3をつけている学生もあり、この点については次回の授業を行うにあたり反省点が残る。	授業の難易度に気を付けながら、基礎的な事項を明確に提示し、学生の理解度を高めようとする。	
79	21349033	Microbiology	10	3	30	4	回答が3名だけだったので、分析が難しかった	留学生にとって専門科目としては初めて学ぶ科目であるので、もう少し最初にイントロダクションを丁寧にして授業の目標を明確に伝えたい。	
80	21349046	Bioresource and Bioenvironment Experiments and Practice 3	14	3	21.4	4.91	The responses were all positive, rating 4-5 for all aspects of the survey giving higher than average results. However the response rate at 21% was below average of 49% and it is hard to judge if the responses received are representative of the whole class.	Main aim will be to encourage a higher response rate for the survey to ensure the sample is more representative.	Perhaps the survey can be better promoted to students as an announcement every time they log into Moodle.
81	21349047	Bioresource and Bioenvironment Experiments and Practice 4	13	2	15.4	4	回収率が15.4%(2/13)と低かった。全ての項目が4であり、比較的良好な評価がなされていた。	よい講義を提供できるように講義コンテンツを精査する。	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったものを除く。）

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	21340103	農学入門Ⅱ	112	74	66.1	4.12	2つに学部教育コースの教員によるオムニバス形式の講義である。アンケート回収率は大きく向上した。いずれの項目も科目群平均値前後であり、標準的な評価であった。「学ぶべき重要な目標を明確に示した」と「双方向性があった」の2項目は低値であり、改善が必要と考えられた。	オムニバス形式の講義であるので改善は容易ではないと考えている。上記の2項目のうち最初の項目「学ぶべき重要な目標を明確に示した」に関してはガイダンス時により強く説明することで効果が期待される。	
2	21340104	農学入門Ⅰ	114	73	64	4.21	10の評価項目のうち、8つは科目群平均とほぼ同様の値であり、オムニバス形式で毎回講義内容も大きく異なる科目としては悪くない評価となっている。相対的に評価が高かったのは（平均4.0に対して4.4）、学修意欲（この授業内容についてより深く学びたいか）であり、農学の動機付けが重要な本科目の狙いは達成されているものと評価できる。一方、相対的に評価が低かったのは（平均3.9に対して3.5）、学修マネジメント（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）、受講数が多い科目であり、改善が容易でないかもしれません。		
3	21340203	生物生産生態学	135	63	46.7	4.21	以下の1つの項目を除いて全ての項目で平均を上回った。130人を超える講義で、オンデマンド形式であることを考慮すると高く評価できる。前年度からの改善の成果が表れた。平均点以下だった項目は、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」である。学生の主体性に左右されるもので、教員の働きかけが効果として表れにくい。	関連する書籍や情報を提示し、関係することを自学するよう伝える。それ以外の項目は今年度の方法を踏襲しつつさらに改善する。	秋学期と冬学期に担当者を替えて実施している。秋学期にもアンケートをとるとさらに改善点を抽出できる。アンケートの自由記述欄は匿名でなく、記名式で行うべきである。学生側の問題であっても（こちらは意図があって行っても学生が気にいらなければ）、あたかも講義の問題点として記録は残る。弁明する機会が教員にはない。
4	21340205	有機化学Ⅰ	107	63	58.9	4.08	アンケートの回収率は60%弱であったが、内容については高評価と言える。1回に教える内容が非常に多い講義であるが、1) 必要事項に焦点をあてて分かりやすく丁寧に説明すること、2) 講義課題については次の講義で解説を行いMoodle上へ添付すること、3) 教えた内容に関する実際の研究での利用例の提示、等を心がけて講義を行なっている。説明がわかりやすい・理解できた等の自由記述にある通り、試験結果も含めて大半の学生が講義内容を理解できたと判断された。	オンライン講義の際にはテキストとスライドを利用するため、講義テキストの重要ポイントについては、別途解説スライドを添付するなど学生が復習する際の視点に立ったサポートを行いたい。対面で講義を実施できる場合には、学生の理解度を適宜はかりながら適切な講義スピードを心がけたい。	
5	21340206	物理数学	126	80	63.5	4.27	各項目の平均値（括弧内の数値は昨年度の値）は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.5 (4.3)、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.6 (4.5)、「授業の難易度は適切であったか」=4.5 (4.2)、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.7 (3.5)、「教員の説明はわかりやすかった」=4.5 (4.3)、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.6 (4.4)、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.5 (4.2)、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=3.5 (3.3)、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.8 (3.5)、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.5 (4.3)、以上であった。 昨年度と比較して、各項目の評価値は僅かではあるが全て増加しているものの、全体的に見ると昨年度と概ね同レベルの評価結果と解釈した。 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、期末試験を含む最後の2週間分が遠隔授業形式となったものの、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.7 (3.5)という低い評価結果は次年度に向けて改善の余地があると感じられる。本授業科目は、多様な（多分野の）学生たちの多様なニーズに応えるため、教授する内容が非常に多く、「双方向授業」の時間的な余裕がほとんど無い、という特殊事情がそもそもあるものの、対面授業時の双方向性が、遠隔授業時の双方向性とほぼ同じ程度とも解釈でき、反省材料といえるのかもしれない。 「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」や「この授業内容についてより深く学びたいか」も引き続き評価が低い。学生の講義内容の理解度を示す「教員の説明はわかりやすかった」や「授業の難易度は適切であったか」は高評価となっており、「関係することを自分で学習」や「深く学びたい」が低評価の理由が、授業内容が難解で理解しにくいためではないことは明らかである。より面白い、学生の興味をより引き出すような講義が求められているのかもしれない。	高評価項目はその評価レベルを維持すること、低評価項目は、「双方向授業」の項目も含め、評価レベルを向上させること、以上を意識して、より面白い、学生の興味をより引き出すような講義を常に目指して、次年度の講義に取り組みたい。 なお、アンケートの回収率は、一昨年度が57.4% (=81/141)、昨年度が64.5% (=78/121)、今年度が63.5% (=80/126)と高止まっている。今年度は、全授業終了後に全受講生にメールで授業アンケートへの協力依頼を行ったが、その効果は薄かったようだ。8～9割の回収率を目指して、次年度も授業アンケートの広報に努めたい。	特になし。
6	21340207	数値解析学Ⅰ	54	17	31.5	4.22	担当講義の授業評価の平均点は科目群平均のそれよりも高値を示した。しかしながら、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」ならびに「教員は、授業に対して熱意を持っていた」の2項目の採点結果が科目群平均よりもわずかに低値であった。一方、過年度に不振であった「授業の難易度は適切であったか」の評価が改善したことは、受講者の修学状況を捉える努力の成果が現れたと理解した。	個別の評価を観ると、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」、「この授業内容についてより深く学びたいか」の3項目の評価点がその他のそれよりもわずかに低かった。来年度は、実問題を絡めた例題を増やし、受講者のモチベーション向上を目指す。	
7	21340208	数値解析学Ⅱ	49	32	65.3	4.57	全ての設問において担当講義の評価点は科目群平均のそれ以上であり、また、全ての項目の評価点の平均点は4.5を超え、昨年度と同様に受講者の満足度が高い評価を得た。昨年度において最も評価が低かった「内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の評価が改善し、受講者のモチベーション向上に配慮した努力の成果が現れたと理解した。	個別の評価を観ると、「授業難易度が適切であったか」の評価点がその他のそれよりもわずかに低かった。来年度は、難易度を軸に複数の例題を提示し、受講者の理解度促進を目指す。	

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
8	21340209	マイクロ経済学	36	15	41.7	4.26	ほぼすべての項目において農学部の平均を上回っており、総じて高い評価を得ることができた。特に、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」「教員は、授業に十分準備して臨んだ」「教員は、授業に対して熱意を持っていた」「総合的に考えて、現在この授業に満足している」という項目の評価が高かった。一方、「学生と教員とのやり取りには双方向性があった」という項目の評価がやや低かった。	総じて高い評価を得ることができたので、今年度の授業内容等を来年度も踏襲したい。評価がやや低かった項目については、コース共通基礎科目という制約の中でどのような工夫ができるか、試行錯誤を重ねたい。	
9	21340210	政治経済学	35	15	42.9	4.29	10項目中6項目（シラバス目標、難易度、双方向性、教員熱意、自己学習触発、総合満足度）で科目群平均を上回り、残り4項目が同じかほぼ同じ（毎回重要目標、説明、教員準備、深く学びたい）だった。また8項目で評価点が4を上回った。したがって少なくともアンケート回答者については、高い評価を受けたと理解する。	上記高評価項目の充実度を維持向上させ、とくにミニレポートをつづじた双方向性を確保していく。次年度は対面講義となれば、講義内でも双方向性をできるだけ確保したいが、学部共通選択必修なので受講者数が多くなる傾向があるので限界もある。またアンケート回収率を上げるよう留意する。	
10	21340211	生物化学Ⅰ	143	45	31.5	4.36	主体的学修と学修意欲の項目が、科目群平均よりも低い点数であった。つまり、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」と「この授業内容についてより深く学びたいか」について、評価が低いことから、学生自ら学習するモチベーションをもたせることはあまりできていなかったと考えられる。	関係することを自分で学習するための素材を提供して、改善する予定。	回収率が低かった。 成績を閲覧する場合には、必ず授業評価を入力する必要がある形にするなど、システムとして回収率を上げる仕組みをすることはできないでしょうか。
11	21340212	生物化学Ⅱ	143	66	46.2	3.98	「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の項目で平均点よりも比較的评价が低かった。これは、授業後半がオンライン講義になってしまったことが主因と考えられる。その他の項目は、ほぼ平均点であった。	受講者が多い講義であるため、学生と教員間との双方向性を高めることが困難ではあるが、受講者の様子を見ながら、学生の理解を深めることができるよう努める。	自由記述欄にポジティブな回答が多かったため、授業内容としては全く問題ないと思う。 分野の異なる学生も多く含まれる講義であるため、全ての学生が興味を持って受講するのは困難であると思われる。 しかし、そのような学生にも興味を持って受講してもらえるように、次年度以降、さらなる工夫をしていきたい。
12	21340213	数値解析学Ⅰ	43	14	32.6	4.22	担当講義の授業評価の平均点は科目群平均のそれよりも高値を示した。しかしながら、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」ならびに「教員は、授業に対して熱意を持っていた」の2項目の採点結果が科目群平均よりもわずかに低値であった。一方、過年度に不振であった「授業の難易度は適切であったか」の評価が改善したことは、受講者の学修状況を捉える努力の成果が現れたと理解した。	個別の評価を親ると、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「学生と教員とのやり取りには双方向性があった」、「この授業内容についてより深く学びたいか」の3項目の評価点その他のそれよりもわずかに低かった。来年度は、実問題を絡めた例題を増やし、受講者のモチベーション向上を目指す。	
13	21340214	数値解析学Ⅱ	43	21	48.8	4.59	全ての設問において担当講義の評価点は科目群平均のそれ以上であり、また、全ての項目の評価点の平均点は4.5を超え、昨年度と同様に受講者の満足度が高い評価を得た。昨年度において最も評価が低かった「内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の評価が改善し、受講者のモチベーション向上に配慮した努力の成果が現れたと理解した。	個別の評価を親ると、「授業難易度が適切であったか」の評価点その他のそれよりもわずかに低かった。来年度は、難易度を軸に複数の例題を提示し、受講者の理解度促進を目指す。	
14	21341201	遺伝学Ⅰ	48	21	43.8	4.32	高校の時に生物選択でなかった学生が毎年いるので、難易度の設定には気を配ったが、概ね適切であったと思われる。	講義中に小テストなどを出題し、主体的に考える時間を設けようと考えている。	
15	21341202	遺伝学Ⅱ	36	23	63.9	4.22	遺伝学Ⅰに比べて、難易度が上がったので、わかりにくところがあったかもしれない。高校の時に生物選択でなかった学生がいるため、難易度の設定が難しい。	その日に学ぶべきポイントを提示する。	
16	21341203	作物学総論Ⅰ	80	34	42.5	4.38	全ての評価項目について、科目群平均を上回っていたことから、途中でオンラインにて対応したものの概ね講義の内容等について、量および質を担保できたのではないかと考える。	配布プリント以外の内容について復習できるように要望があったことから、板書等を利用し受講者が復習できるように努めたい。	
17	21341204	作物学総論Ⅱ	81	50	61.7	4.35	学生と教員とのやり取りに双方向性があった項目において3.8と低い値となっているが、80名以上の受講生がいる中で、全体への問いかけ等が少なくなってしまうと考えている。	双方向性に関して特に意識しながら講義を進めることについては、講義途中に問題等を示すことや質問の時間を別途設けることで、対応したいと考える。	
18	21341205	微生物学	51	33	64.7	4.31	学生の評価は全項目において4以上であった。	オンラインと対面では学生の評価は大きく異なる可能性がある一方で、対面になった場合の対応について様々な改良を加える予定である。	
19	21341207	生物統計演習	31	21	67.7	4.24	授業準備や熱意については評価してもらったが、双方向性のやりとりができていなかった。内容が多いこともあり、時間がなく質問に結びにくい授業構成であるだろう。数理的な側面があるので、授業内容が複雑化するにつれて、授業の難易度も上がるので説明を単純化せざるを得ず、教員と学生相互に質問をしにくい状況になることも要因の一つであると考慮された。	次回講義では、授業の冒頭の理論的説明をより省き、経験から理解を進めさせる方式への切り替えをより進めることが重要かと考えられたが、逆に理解をよくしている学生にとっては、本質的理解をそこなわせるものである一方で、バランスが必要と感じている。	
20	21341210	園芸科学総論Ⅰ	74	29	39.2	4.28	回収率が約40%で、かなり低かった。最頻値は5〜4で、一定の評価を得ていると思うが、「学修目標の明確さ」、「難易度の適切さ」、「双方向性」の項目では最頻値が4であり、改善が必要と考える。昨年度までは、おもに農学分野の学生が受講していたが、今年度から比較的幅広い分野の多数の学生が受講するようになり、「難易度の適切さ」の項目に現れてきたと考えている。	受講生の分野を踏まえながら、難易度を落とさずにわかりやすい授業に努める。コロナ禍のため「双方向性」の授業が困難な状況であるが、受講生が「双方向性」を感じられるような工夫を検討したい。	



令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
21	21341211	園芸科学総論Ⅱ	74	44	59.5	4.41	10項目のうち8項目で「強く思う」、2項目で「そう思う」が最頻値であり、受講生にとって概ね良い評価を頂いているように感じた。新型コロナ対応の講義のため「学生と教員とのやりとりの双方向性」の数値が低くなったのはある程度やむを得ないが、主体的学習についてはコロナ対応に関わりなく改善の余地があると考ええる。	主体的学習「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の項目に関する改善に向け、講義での説明内容や方法について改善したい。	アンケート回収を促すアナウンスをしていたが、今回の回収率は約6割で、さらに回収率を高める必要があると考える。
22	21341212	植物生理学Ⅰ	47	21	44.7	4.41	全ての項目で「4」を上回っていた。しかし、「シラバスの学習目標は明確だった」の評価が科目群平均と同じであった。	本年度から「植物生理学」を「植物生理学Ⅰ」と「植物生理学Ⅱ」に分けて授業することとなった。秋学期は、農場集中実習や進級生歓迎会などの行事により休講にせざるを得ないことが多く、当初予定したところまで、授業することができなかった。休講も考慮に入れたシラバスを作成する。	
23	21341213	植物生理学Ⅱ	36	24	66.7	4.40	授業評価は、すべての項目で科目群平均を上回り、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」を除くと評価が「4」よりも高かった。	「自分で学習する」きっかけとするため、授業に関わることで関心を持ったことを自ら調べるレポートを課してみる。	
24	21341214	基礎昆虫学Ⅰ	41	18	43.9	4.55	「教員は熱意を持っていた」と「教員は十分に準備して臨んでいた」は、いずれも4.7と評価が高かった。また、「教員の説明の分かりやすさ」は4.6、「学生と教員とのやりとりの双方向性」と「授業に触発されて自分で学習した」は4.5と平均を上回った。一方、「授業の難易度」と「より深く学びたいか」は4.4という評価だったため改善の余地があるが、「総合的な満足度」は4.6ポイントであったことから、総じて満足度は平均以上と判断できる。	「学生と教員とのやりとりの双方向性」は4.5だったが、質問があれば授業時間内にメールで質問してもらい、次の授業で全員に向けて毎回丁寧に答えたいため、リモートになってもこの項目の評価が上がり、「授業の難易度」も適度に保てた要因だと思われる。今回の講義でも同様に双方向性を確保したい。一方、「学修意欲」を評価する「より深く学びたいか」の項目の評価がやや低かったため、さらに学習意欲を触発するように工夫したい。	アンケートの案内不足と授業中にアンケートを実施できなかったため、回収率が43.9%と低くなったと思われる。今回は回収率を上げるように努力したい。
25	21341215	基礎昆虫学Ⅱ	41	28	68.3	4.55	「教員は熱意を持っていた」は4.8、「教員は十分に準備して臨んでいた」は4.7、「教員の説明の分かりやすさ」と「学生と教員とのやりとりの双方向性」は4.6、「授業の難易度」は4.5と平均よりも評価が高かった。一方、「授業に触発されて自分で学習した」は4.1、「より深く学びたいか」は4.3という評価だったため改善の余地があるが、「総合的な満足度」は4.7ポイントであったことから、総じて満足度は平均以上と判断できる。	「学生と教員とのやりとりの双方向性」は4.6だったが、質問があれば授業時間内にメールで質問してもらい、次の授業で全員に向けて毎回丁寧に答えたいため、リモートになってもこの項目の評価が上がったと思われる。一方、「主体的学修」を評価する「授業に触発されて自分で学習した」の項目の評価が低かったため、さらに学習意欲を触発するように工夫したい。	アンケートの案内は十分に行ったが、回収率が68.3%という結果だったので、今回はさらに回収率を上げるように努力したい。
26	21341307	植物育種学各論	32	24	75	3.99	おおむね平均以上を達成できているが、双方向性の評価が相対的に低かった。授業でディスカッションをする時間等を確保できていないことが要因と考えられた。また、主体的学習のスコアが低かったが、これは授業に相当する教科書が存在せず、深く調べる材料がないことが理由として考えられる。	説明がひと段落するごとに問題提起などをこちらからすること、トピックを紹介するなど、ディスカッションをする習慣、トレーニングを身に着けさせる教育を考えていく必要がある。	
27	21341308	植物病理学各論	39	31	79.5	4.53	学生の評価は全項目において概ね良好であると分析される。	今回はオンラインであったので、対面での学生からの評価を行った上で、検討していく予定である。	
28	21341309	熱帯作物・環境学概論	50	34	68	4.29	本授業では7名の教員によるオムニバス形式で行ったが、シラバスの学習目標は明確であり、教員は毎回の授業で学ぶべき重要な目標を明確にしたと受け止められた。特に、教員は授業に十分準備して臨んでおり、教員は授業に対して熱意を持っていたと考えている学生が60%以上いたことから、講義は適切に行われたと判断できる。	上記のように、教員は熱意をもって授業に臨んでいたが、学生と教員とのやり取りには双方向性があったと感じた学生は23.5%であったことから、今回の講義では教員側が学生に対して一方的に行うのではなく、学生からの自発的な意見を引き出すような双方向性をもつ講義を目指したい。	特になし。
29	21342201	土壌学	62	60	96.8	4.29	総合的には学生からの評価は良かったと思われる。とくに教員の熱意、準備、双方向性の評価は高く、自由記述欄でも好意的な意見が10件ほどあった。ただし、「授業内容に触発されて関係することを自分で学習した」および「この授業内容についてより深く学びたいか」の設問に対するスコアは平均よりも低かった。	授業内容を一部見直し、学生により深く学びたいと思ってもらえるようにコンテンツを組み替えたい。	学生の登録数62に対してこのアンケートの回収が60であり、回収率96.8%の中でのこの評価であるので、悪くないのではないかと思います。
30	21342202	気象学	23	12	52.2	4.58	講義については、多少の改善はあるが、内容は大幅には変わっていない。しかし、評点は大幅に上がった。これは講義の受講生が、前回は専門外の方が多く含まれるなど、様々な分野の方が含まれていたが、今回はほぼ専門に近い分野の方のみで構成されていたことが大きな要因と考えられる。また、内容ではなく多少の講義テクニックの改善も効果があった可能性もある。あるいは学生の評点が昨年より全体的に甘めなのかもしれない。	講義は自らの評価に基づいて改善するところは改善する。学生からのコメントも参考になる部分もあるので改善への参考する。	構成する学生によって評価が大きく変わりをことを経験した。このことはアンケートの使い方についていると教えさせられる。
31	21342203	水環境工学	34	22	64.7	4.44	各項目の平均値（括弧内の数値は昨年度の値）は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.6（4.6）、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.7（4.5）、「授業の難易度は適切であったか」=4.6（4.3）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=4.0（3.3）、「教員の説明はわかりやすかった」=4.6（4.3）、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.7（4.6）、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.8（4.4）、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=3.8（3.4）、「この授業内容についてより深く学びたいか」=4.0（3.7）、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.6（4.3）、以上であった。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大で、最後の1回は遠隔授業としたが、それ以外は期末試験も含め、対面授業で実施することができた。加えて、コロナ禍による遠隔授業のために昨年度、作成した講義ビデオを今年度もYouTubeにアップロードして、これを講義復習ビデオとして、希望者には授業後にオンデマンド・ストリーミング配信で視聴できるようにした。担当教員にとって初めての試みであったが、授業アンケート結果は、昨年度と比較して、全項目で評価値が上がっており、効果的な授業構成、授業コンテンツが提供できたものと安堵している。	今年度は、ほぼ全て対面で授業を実施した結果、全項目で評価値が上がった。次年度は、講義内容や講義形態を大きく替えるつもりはないが、過去の経験から、同じようにしても評価が大きく下がる可能性があることを意識して、講義に臨む必要がある。 なお、アンケートの回収率は、一昨年度が69.2%（=27/39）、昨年度が58.1%（=25/43）、今年度が64.7%（=22/34）と、回収率が伸び悩んでいる。今年度は、全授業終了後に全受講生にメールで授業アンケートへの協力依頼を行ったが、その効果は薄かったようだ。8～9割の回収率を目指して、次年度も授業アンケートの広報に努めたい。	特になし。

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
32	21342204	水理学Ⅰ	50	20	40	4.08	前年度までは、質問10項目のうち7項目でポジティブ回答が8割を超えていたが、今年度になって突然、8割超えの設問が4項目と大きく減った。とくに、満足度のポイントが3.8と、初めて4を下回り、過去最も低い値であった。基本的な授業形式を変えておらず、むしろ今年度から、毎回課している演習問題に対して、考え方のヒントを添付するなどの工夫も凝らしているにも関わらずこの満足度には、正直、理解できない。加えて、特徴的な回答は、主体的学修と学修意欲も、前年度に比べてポイントが下がっている。この学習意欲の低下が授業の満足度の低下に繋がったと推測できる。本講義が、農学部学生において不得意とされ毛嫌いされる数物系科目であることから、主体的学修や学修意欲を促しきれなかったと分析できる。	昨年度までの講義形式では、学修デザイン、インストラクション、主体的学修、学修意欲のいずれも満足度4を超えていたが、本年度では、突如、ポイントが3点に下がった。本科目は、数物系の基礎科目であり、計算力も必要とすることから、本年度の受講生にとって、特に不得意な科目であり、学習意欲が低下したものと思われる。したがって、次年度は、受講生の学習意欲に特に気を配りながら、講義を進めたい。	
33	21342205	土質理工学Ⅰ	21	13	61.9	4.37	今年度の授業アンケート（評価）回収率は61.9%（21人中13人のみ回答）となり、前年度（65.2%）よりやや低くなった。授業アンケート（評価）結果については、すべての項目において、評価値が農学部開講全科目の平均値以上であり、かつ主体的学習に関する項目である共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）以外の項目の評価値は4以上であった。この結果から、授業後半ではオンライン授業に移行したが、授業内容や授業方法などについては、概ね理解されていると判断した。特に、共-60（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）の評価値（4.6）がよかったのは、課題レポートの添削実施が反映しているようだ。一方、主体的学習や学修意欲に関する質問項目（共-3、221（この授業内容についてより深く学びたいか））の数値が、他の項目よりかなり低い（悪い）ことが気になる。 出席・受講状況（前年度より僅かによい）、課題レポートの提出状況（前年度とほぼ同じ）などから総合的に判断すれば、今回の授業アンケート結果は、（回収率は十分とは言えないが、）授業の実態をある程度は反映していると評価できる。	授業評価（授業アンケート）結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、タイムリーな話題や現場（実務）の問題を授業で取り扱うことによって、授業内容に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。また、例年通りではあるが、授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答や課題レポートなどを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めていきたい。	新型コロナウイルス感染防止対応のため延期している学期末試験を、なるべく早く実施する予定である。
34	21342206	地理空間情報解析学	20	7	35	4.72	すべての項目において、科目群平均を上回っていた。特に、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「授業の難易度は適切であったか」の2つの項目に関しては5.0と全員が満足していた。	登録者数20名に対し回収数が7名と回答率が低かったため、アンケートへの回答を徹底させていく必要がある。	
35	21342208	生物生産環境工学概論	29	16	55.2	4.43	外部講師のために一部広義内容が重複していた。	外部講師なので、できる範囲で調整を図る。	
36	21342303	農地環境工学	26	10	38.5	4.27	授業評価（授業アンケート）の回答率は、前年度（59%）よりかなり低く（38.5%）なった。学期末試験以外の授業をすべてオンラインで実施した前年度と違って、本年度は大半の授業を対面授業で実施したため、本年度の授業評価結果は、前年度のもの単純に比較できない。 今年度の授業評価結果では、農学部開講科目の平均値より数値が悪かった項目は、共-53（教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した）と共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）の2つだけであり、かつ他の項目の評価値は何れも4.0以上であった。この結果から、授業後半ではオンライン授業に移行したが、授業内容や授業方法については概ね支持されていると判断した。しかし、主体的学習や学修意欲に関する質問項目（共-3、221（この授業内容についてより深く学びたいか））の数値が、他の項目よりかなり低い（悪い）ことが気になる。	今回の授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、タイムリーな話題や現場（実務）の問題を授業で取り扱うことによって、授業内容に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。また、従来通り初回授業時に授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答や課題レポートなどを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めることを心がけたい。 授業アンケートについては、回収率向上のための工夫・改善に努めたい。	新型コロナウイルス感染防止対応のため、やむを得ず学期末試験を取りやめたが、成績（達成度）の公平な評価の点では問題が残った。
37	21342304	園芸環境工学	19	14	73.7	4.62	1つ（主体的学習）を除いてすべての項目において科目群平均値を上回り、受講生の満足度は高かったと思われる。	主体的学習の結果が科目群平均（3.8）と同じであり、今後の改善が必要だと思われた。学生の興味を引出し、自ら能動的に学習に向かわせるように、課題の出し方の工夫を検討したい。	
38	21342317	利水工学	17	9	52.9	4.43	概ね高い評価が得られた（全項目の平均4.4）。特に「学生と教員とのやりとりには双方向性があった（4.9）」、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた（4.8）」の評価が高い一方で、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した（3.6）」が低く科目群の平均を下回った。	単位取得だけを目的としている受講生もいるため、主体的学修に関する項目で点数が低くなるのは仕方ないと考えている。そのような受講生からも「総合的に考えて、現在この授業に満足している（4.7）」と評価されているので、来年度以降も同様の評価が得られるように努めたい。	

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
39	21342319	水文学	18	9	50	4.60	<p>各項目の平均値（括弧内の数値は昨年度の値）は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.8（4.6）、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.8（4.8）、「授業の難易度は適切であったか」=4.7（4.5）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=4.7（3.4）、「教員の説明はわかりやすかった」=4.8（4.4）、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.8（4.6）、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.8（4.4）、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=3.6（3.7）、「この授業内容についてより深く学びたいか」=4.2（3.9）、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.85（4.6）、以上であった。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大で、1月中旬以降は遠隔授業としたが、それまでは対面授業で実施することができた。加えて、コロナ禍による遠隔授業のために昨年度、作成した講義ビデオを今年度もYouTubeにアップロードして、これを講義復習ビデオとして、希望者には授業後にオンデマンド・ストリーミング配信で視聴できるようにした。担当教員にとって初めての試みであったが、授業アンケート結果は、昨年度と比較して、ほぼ全項目で評価値が上がっており、効果的な授業構成、授業コンテンツが提供できたものと安堵している。</p> <p>「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」や「この授業内容についてより深く学びたいか」も引き続き評価が低い。学生の講義内容の理解度を示す「教員の説明はわかりやすかった」や「授業の難易度は適切であったか」は高評価となっており、「関係することを自分で学習」や「深く学びたい」が低評価の理由が、授業内容が難解で理解しにくいためではないことは明らかである。より面白い、学生の興味をより引き出すような講義が求められているのかもしれない。</p>	<p>高評価項目はその評価レベルを維持すること、低評価項目は評価レベルを向上させること、以上を意識して、より面白い、学生の興味をより引き出すような講義を常に目指して、次年度の講義に取り組みたい。</p> <p>なお、アンケートの回収率は、昨年度が50.0%（=14/28）、今年度が50.0%（=9/18）であった。今年度は、全授業終了後に全受講生にメールで授業アンケートへの協力依頼を行ったが、その効果は薄かったようだ。8～9割の回収率を目指して、次年度も授業アンケートの広報に努めたい。</p>	特になし。
40	21342320	地域環境問題演習	19	9	47.4	4.29	特段の意見なし。	適宜改善を図る。	
41	21342321	技術者倫理	30	12	40	4.28	<p>各項目の平均値は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.3、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.4、「授業の難易度は適切であったか」=4.1、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.9、「教員の説明はわかりやすかった」=4.2、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.5、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.5、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=3.8、「この授業内容についてより深く学びたいか」=4.0、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.3、以上であった。</p>	<p>今年度、非常勤講師として初めて担当した科目であるが、コロナ禍により遠隔授業となり、予め公開した講義資料に基づくオンライン授業であったため、『「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.9』は致し方ないと考えている。それ以外は、心配していたほど悪くはない評価であった。しかしながら、全く同じ環境で、全く同じ内容の授業をしていても、年度によって授業アンケートはかなりばらつく傾向があるとのことで、1年分の結果を持って評価の良し悪しを判断することはできない。加えて、来年度も遠隔授業であれば別であるが、対面授業となることが予想され、授業アンケート結果の授業改善へのフィードバックは難しい。</p>	特になし。
42	21342322	農村計画学概論	51	18	35.3	3.65	特段の意見は無し	適宜講義の見直しを図る。	
43	21342323	土壌物理学	22	11	50	4.01	一部スライドが見にくかったという指摘があった。	スライドの作成を改善する。	
44	21343201	農業情報学	35	26	74.3	3.84	農学部では、基幹教育でプログラミングの講義がほぼ受けていないため、プログラミングに関する知識が大幅に不足しているのがわかった。このため、評価が低くなった。	<p>今後、農学部でDX科目を導入を行うとなると、最低限の（言語は何でも良いので）プログラミングに関する知識やスキルは基幹教育である程度身につけさせる必要があると強く感じた。小型コンピュータを使ったプログラミング中心の科目であり、当該分野の学生にとっては、卒論や大学院研究等を推敲する上で重要な内容の科目と位置づけているが、上記理由により、次年度は大幅にレベルを下げた講義を行うこととする。</p>	
45	21343308	機械設計学	11	6	54.5	4.47			
46	21343309	応用熱工学	10	4	40	4.32	概ね良好な評価であった。特に、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の項目については評価があり、自主学習が進んだことが窺えた。双方向性についてのみ平均程度であった。	双方向性を向上させるため、授業時間外での対応を柔軟に進めて行く。	アンケート回答率が40%と低く、改善の余地がある。
47	21343310	自動制御工学	10	6	60	4.35	評価は科目群平均以上であり、講義内容や難易度も学生にも概ね評価されているわかった。	次年度も評価維持・向上できるように、内容をブラッシュアップしていきたい。	
48	21343311	構造力学	33	17	51.5	4.14	評価は科目群平均と概ね一致する結果であった。章末問題を難しいと回答する学生が多かった難易度に関しては評価が低かった。材料の変形挙動の可視化に、コンピュータシミュレーションを取り入れるなど工夫したことから前年度よりは評価が全般的に向上した。	章末問題や解説方法を見直すことにより、学生の理解度向上に役立てるようにしたい。	
49	21343312	農業施設学	25	7	28	4.40	ほとんどの項目で5段階中平均4以上の評価が得られ、特に問題なく学修してもらえたと考える。	引き続き事前準備をしっかりと行い、わかりやすい講義に努める。	
50	21343313	熱工学	14	4	28.6	3.42	物理的基礎力が求められる科目であり、物理選択者か否かで学生間で理解に差が生じた。	自主学習につながるよう主体的学修意欲の向上に努める。	
51	21344202	経営学	34	17	50	4.59	担当講義は、全ての質問項目で科目群平均を上回る評価であった。「教員は、授業に対して熱意を持っていた」4.8、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」4.7、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」4.7、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」4.7が上位項目であり、概ね高評価であった。	「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」は科目群平均は3.8に対して、担当講義は科目群平均を0.3上回る4.1であった。これらの値は、科目群平均においても担当講義においても、質問項目の中では低い値であった。さらに、学生生の学習意欲を高め、自ら学習を行う工夫を行う。	
52	21344203	流通論	43	21	48.8	4.43	評価の低い項目はなかったため、概ね、狙い通りの講義はできたと考える。	当該講義の担当初年度だったことから、より分かり易い説明に修正していく余地が残った。また、講義の進行についても、計画通りとならない点があったので、その点を改善していきたい。	

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
53	21344205	計量経済学	33	12	36.4	4.54	アンケートの全項目において4.0以上のスコアを出し、全ての項目で学部平均を上回った。スコアが4.5未満の項目は、学修マネジメント(4.2)、主体的学習(4.1)、学習意欲(4.3)の3項目だけであった。	主体的学習の項目が相対的に低かったので、実社会での活用例なども紹介し、当該科目に興味を持って貰えるよう工夫する。	特になし
54	21345204	分析化学Ⅰ	79	28	35.4	3.97	回答数が34.9%と低かったことがまず反省点として挙げられる。「毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「授業の難易度は適切であったか」については平均と同じまたは若干上であったが、他の項目については平均より0.1~0.5低い評価となった。特に「教員は、授業に対して熱意を持っていた」「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」については0.5, 0.4, 0.4ほど平均より低かった。	今後は回収率を上げるよう、講義内でも周知をするよう努める。教員は2名とも意欲を持って臨んだつもりであったが、評価が伴っていないので、関係することを自習してもらえよう分析化学に関係する身近な事例、応用的な側面を加えるなどして熱意を伝え、双方向性を高めるよう工夫したい。	
55	21345205	分析化学Ⅱ	78	72	92.3	4.04	学習目標、難易度、双方向性、説明のわかりやすさ、熱意、満足度など、ほとんどの項目に関して、良好な結果となった。基礎科目という性質上「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」という点では、評価は低くなったと思われるが、学生の修学意欲を引き出すような工夫も今後必要である。	評価の低かった「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」という点について、学生の修学意欲を引き出すような工夫を講じたい。板書が見にくいという声が多数あり、スライドでの講義を要望する学生の声があったが、今年度は授業の進行のスピードを考えて、板書での講義を選択した。スライドでは授業のスピードが理解を超えてしまう恐れもあり、対応は検討したい。	「黒板の字が読まない」と多数の学生が抗議しましたが、改善されませんでした。」 「黒板の字が小さく、汚かったので、全く見えませんでした。それを先生に伝えても何も改善されなかったもので、来年は改善した方がいいと思います。」 上記の様なコメント、極めて不愉快です。 学生に好き勝手コメントを書かせるのは構いませんが、担当教員がこの集計とまとめ作業を行うのであれば、せめて建設的な提案を求めるよう（さらには、不快に思う表現を避けるよう）に、問い方を工夫して頂けると幸いです。 少数の意見だとは思いますが、授業をするモチベーションが著しく損なわれます。 あるいは、この集計と分析作業は、学生係でまとめて行っていただくほうが、客観性が保たれて良いと思います。 また、この授業アンケートとその集計と分析についてですが、その目的と活用方法を十分に把握できておりません。
56	21345206	基礎微生物学Ⅰ	73	28	38.4	3.10	今年度初めて担当した為、分析が難しい点がある（回収率の低さ等）が、アンケートに回答した学生は、問題が難しくすぎるとの回答が多かった。定期試験はノート持ち込み可と事前に通告しており、最高点94点、平均点は70点を超えていたので、アンケートに回答していない学生の中では難しくないと考えている学生もいるように思える。ただし、理解が進んでいた学生と、理解できていない学生の差が大きいうように考える。このギャップを埋めることは必要だと思う。また、小テストの問題が難しい、または、内容が講義に含まれていない等の記述があったが、小テストは出席と講義内容を聞いているかの判断で行ったので、講義中に口頭で説明した内容を多く出題したため、講義に集中していない学生は聞き漏らしているため、難しいと考えるのは当然と思う（小テストは、翌週の講義の最初15分間くらいで詳しく説明し、その内容の多くを定期試験で出題した。小テストの解説スライドも学生の希望でmoodle上に全てアップロードした）。	微生物学では学名が必要であるが、これについては難しいと見え、「暗記しなくてもノートを見て答えれば良い」と説明し、「暗記問題は出さない」と説明したが、まさか全て覚えずに試験に臨む学生がいるとは予想しなかった。したがって、時間の初回講義では、今年の事例を説明し、「ノートは持ち込めるが、どこに何が書いてあるかは覚えなさい」など事細かに指示を出す必要があると感じた。 また、専門で微生物を研究する学生のことを考え、微生物学の基礎情報を網羅してスライドにし配布したが、多すぎるとの苦情があったので、最低限に絞ることとする。その他の情報は興味のある学生の参考資料として別途をmoodle上に配布することでこの苦情も無くなるように考える。	
57	21345207	基礎微生物学Ⅱ	74	46	62.2	4.07	概ね科目群の平均と同程度であったが、双方向性や説明のわかりやすさが4以下かつ平均を下回っていた。オンラインとの併用だったことも一因と考えられるが改善の余地がある。全体としては、微生物に関する基礎を習得させ、今後の発展的内容への橋渡しをするという目標は達成されたと考えられる。	双方向性やわかりやすさに留意し、学生の理解や意欲が深まるように準備をしたい。	
58	21345208	物理化学	73	46	63	4.08	概ね4.0以上の評価となっていたが、双方向性、主体的学修、学修意欲が4.0より低く、改善につとめていきたい。	これまで通りの授業を継続していくと共に、双方向性、主体的学修、学修意欲の向上につとめていきたい。	
59	21345212	単位操作	74	25	33.8	3.80	今回の講義は平均よりも低値だった。今年度から始めた講義だったこともあり、受講人数が読めなかったこと、遠隔とのハイブリッドだったことなどから、十分に伝えることができなかつたのかもしれない。また回収率も低かったことも影響しているかもしれない。	来年度は担当者が変更されるので、今回の内容を伝えて、より良い講義となるよう助言したい。	
60	21345213	反応工学	74	61	82.4	4.43	主体的学修以外(3.7、科目群平均3.8)は、すべて科目群平均を超え、全アンケート項目の平均値も4.4であり、概ね希望通りの結果となった。	レポートを課すことで、主体的学修をうながすことを考えている。	今年度が初めての授業であり、修正が必要と考えられた。

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
61	21345214	生命化学	39	24	61.5	3.65	「生命化学」はクオーター制への移行に際し、食糧化学工学分野内で議論し、2単位制で行っていた講義内容を全面的に改訂し、遺伝子の化学的修飾と発現制御、エピジェネティクス、食品成分によるそれらの機構への関与等が主たる内容となった。2021年度は改定後初めての講義であった。遺伝子の発現制御機構が中心であり、2年次学生にはやや内容が高度であったようで、アンケート結果は全項目で農学部平均を下回っていた。特に共-211"授業の難易度は適切であったか"が3.0であり、農学部平均4.1よりも大幅に低かった。また共-60"講義の双方向性"についても3.1であり、農学部平均3.9よりもかなり低かった。共-81と共-221は平均値マイナス2ポイントであったが、他はそれ以上に平均より低値となっていた。その原因は2年次における関連専門基礎科目（細胞生物学、生化学等）の習熟度を全く考慮しておらず、大学院生レベルの内容となっていたことであると推察された。	2022年度は講義項目は変更せず、内容について専門基礎科目の講義内容を把握した上で、より平易な説明と図の追加等を行うこととする。双方向性については、講義中の小テストを講義内容について自習による再確認を促すものとし、質問とその回答も受講生全員で共有可能な方式に変更する。	
62	21345215	遺伝子工学	41	27	65.9	3.47	今年度開始した講義であったが、難易度が高かったとの意見が多く見られた。この理由として講義内に行った小テストが難しかったという意見が大半であった。	小テストについて「授業後の10分弱で解くのは難しかったです」とのコメントがあったが、参考図書からの問題と、講義の中のキーワードを複合的に考える問題であったため、予習をせず講義中に初めて聞いた者にとっては難しいのは当然と思われる。講義資料を1週間前からmoodle上に上げる等予習を促したつもりであったが、「予習をするように」と口を酸っぱく言うべきであったと思う。	
63	21345216	生物化学Ⅲ	55	29	52.7	4.10	評価点の平均はほぼ科目群全体の者と同程度であったが、平均より低いものが高いものより多く、それらの多くは内容の説明や講義の準備状況に関連するものであった。本講義は本年度から新たに開講したものであることが、このような結果の主たる原因であると考えられる。	今回のアンケート結果を反映させて、来年度の講義の改善に努める。	
64	21345312	生物解析・機器分析法	45	26	57.8	4.43	多くの項目で、科目群平均より高い評価がえられており、またそれ以外のものでも科目群平均程度の評価であったことから、概ね妥当な授業出会ったと考えられる。	来年度は前期開講となり、また春学期と夏学期の1単位科目x2に実施方法が変更となるが、概ね本年度を踏襲する実施方法で問題ないと考えられる。	
65	21345313	生物化学各論Ⅱ	35	22	62.9	4.65	すべての評価において平均点を大きく上回っており、学生から高く評価されていると分析した。「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の項目の評点が4.1と少し低かった。	学生と教員間との双方向性を高めることができるよう努める。	自由記述欄にポジティブな回答が記入されていた。次年度以降も、学生に興味をもって聴講してもらえるように、さらなる工夫をしていきたい。
66	21345319	食品分析学	35	28	80	4.11	受講学生は、概ね授業内容を理解していると捉えることができる。	これまで通りに授業を実施する。	
67	21345321	食品製造工学	35	27	77.1	4.23	双方向性及び主体的学修において平均よりも低値であった。他は概ね平均以上の値を示していた。	双方向性について検討していきたい。	
68	21345322	微生物工学	66	51	77.3	4.05	本講義は、農学部の学生はやや苦手とする数学を用いた微生物生産の理解を目的とする講義であり、学生の理解や意欲を高めることが難しく、例年、科目群にて平均以下のスコアであった。しかし、本年は、努力のいかももあり、ほぼ平均並みの総合スコアであった。評価が平均を下回る項目は、教員の説明が分かり易かった(3.9)、授業内容に触発された(3.6)、この授業についてより深く学びたいか(3.8)と、やはり授業内容が農学部の学生には学習しにくい講義内容を対象としていることを反映している。また、双方向性が3.6とこれに関しては、授業の後半が遠隔授業となったことも大きく影響していると思われる。高い項目としては、授業内容・目標が明確であったと、この点については本年は特に意識して取り組んだ部分であり、努力が反映されている。	本講義を担当するようになり、4回目であった。そろそろ講義にもなれてきて、熟練の域に入ろうとしている。余裕も出てきたので、数学な苦手な農学部の学生にも親しみやすく講義を聴講できるように、徐々に説明や課題に工夫を重ねていきたいと考える。	ちょうど同時期に行われる、単位操作実験の内容とリンクしている。食糧化学工学分野の学生に限るが、学生実験との連携を図ることにより、学生の理解と興味をより高めることができると思われる。
69	21345335	栄養生理学	41	32	78	4.36	オンラインのため、かなり良く理解が伝わったと考えています。	授業の質問は別サイトで行ったところ、好評だったので次回も行うことにする。	
70	21345336	食糧製造化学	61	40	65.6	4.33	本講義は実生活に密着した内容であることから、興味をもって受講してくれた学生が多かったことが本アンケートから確認できた。特に、主体的学修や学修意欲に対する評価が平均値よりもはるかに高かった。また、自由記述でも興味深い内容であるとのコメントも寄せられていた。学生の理解度を毎回のアンケートにより計りながら、講義資料を準備・修正し、毎回の授業で前回の復習と明確な授業テーマ・目標を明確化した点が、コメントでも触れられていたように、高く評価されたものと考えている。しかしながら、学生との双方向のやりとりにはさらなる工夫が必要である。	基本的な授業のあり方はこれで良いと思われるが、できるだけ双方向のやりとりで学生が実感できるような工夫を心がける。より積極的な学びにつながるような雰囲気づくりにも配慮したい。	
71	21345337	食品製造機械学	36	28	77.8	4.16	目標の明示、授業の準備、熱意が平均より低値であった。学生による発表形式をとったため、若干これらの項目が低い値を示したと考えられる。一方双方向性や主体的学習は高い値を示していた。	次年度は担当者が変更されるため、今年度の傾向等を伝えて、より良い講義となるよう助言をしたい。	
72	21345338	食品保蔵学	34	24	70.6	4.24	例年と同様、講義を通して出された質問を受講生に回答させることで双方向性（評価ポイント4.3）を感じ取ってもらえたようである。ただし、教員の説明がわかりやすかったという評価は4.0であったこと、さらに、この授業内容についてより深く学びたいかという点も4.2であり、まだ改善の余地があると考えられる。基本的には、本講義の「食品の保蔵や加工に関する基礎知識を認識あるいは習得する」という意義については理解して取り組んでもらえたと考えられる。	本講義は食品企業に就職するためには必須の講義であり、また、実生活にも役立つ内容である。企業で行われている最新技術等の情報収集に努め、基礎科目によって得た知識と応用分野である食品保蔵に係わる知識・技術との結びつきについて詳細に解説することで、学生にはより積極的に講義に臨みたいと思わせるようにしたい。	

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
73	21346207	木質科学	34	7	20.6	4.33	10の項目のうち、6つで科目群平均を上回る評価であった。相対的に特に評価が高かったのは（平均3.8に対して4.4）、主体的学修（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）、2年の後期で重要となる就学の動機付けがうまくいっていたと評価できる。一方、相対的に特に評価が低かったのは（平均4.4に対して4.1）、学習デザイン（教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した）であり、オムニバス形式の科目であることが影響しているかもしれない。	回収数が7と低位なため、改善を図る必要がある。オムニバス形式の科目であるが、おおむね評価は悪くなく、基本的には今後も同様な講義でよいと考える。学習デザイン（教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した）については、各担当の教員がそれを意識すること改善が図れるものと思われる。	
74	21346208	材料物理化学Ⅰ	36	5	13.9	3.82	受講生の講義への積極的参加が授業中にみられた。その結果がアンケート結果に現れていると思う。	このまま継続してよいと判断できる。	
75	21346209	材料物理化学Ⅱ	36	8	22.2	4.19	受講生の講義への積極的参加が授業中にみられた。その結果がアンケート結果に現れていると思う。	このまま継続してよいと判断できる。	
76	21346210	環境地学Ⅰ	35	4	11.4	4.34	すべての項目について3以上の評価を得た。一方で、双方向性及び主体的学習の項目では平均点が4以下となった。	次回以降、オンライン講義であっても受講生との双方向のやりとりを出来るだけ増やすようにするとともに、授業内容の面白さを伝えられるよう工夫する。	
77	21346211	環境地学Ⅱ	37	8	21.6	4.20	主体的学修及び学修意欲の項目を除いた項目は3以上の評価を受けており、オンライン講義であっても良い授業であったと考えられる。一方で、主体的学修及び学修意欲の項目の評価は2以上となった。オンライン講義であったため、講義で説明した内容の面白さを十分に伝えきれていない可能性がある。	次回以降、仮にオンライン講義であっても、当該科目の面白さを伝えられるよう、教材及び説明の仕方を工夫していく。	
78	21346212	木質構造力学Ⅰ	36	6	16.7	3.47	現時点、専門外の学生が多く、学生に親しめる内容ではない。	学生に興味のある話をし、導入を試みる。	
79	21346213	木質構造力学Ⅱ	36	9	25	4.08	概ね平均である。満足度が低めなのは、学生に慣れない物理・力学系の授業の影響と考えている。目標の設定の評価が低いのは改善の余地がある。	授業の都度、授業内容について目標の設定を明確にする。	
80	21346214	森林環境社会学	40	6	15	4.23	回収率が15%と低かった。学習目標の明確さ（共-51）、目標の明確化（共-53）、十分な準備（共-68）、主体的学修（共-3）で科目群平均よりも低い評価であった。	2020年度まで実施していた10回分の講義を、2021年度から8回分にすることもあり、内容の厳選が必要であった。シラバスの改善と組み立てを見直したい。また、授業の最後に授業評価実施について周知することを忘れないようにしたい。	
81	21346215	森林環境経営学	37	8	21.6	4.62	10項目のうち9つで科目群平均を上回り、1つは同じ評点があり、バランスよく評価が高いといえる。特に相対的に評価が高いのは、平均3.9に対して4.8の学修マネジメント（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）と平均4.0に対して4.8の学修意欲（この授業内容についてより深く学びたいか）であった。講義中はクリッカーを多用したり、レポートの質問事項を次回講義でフィードバックしたりしたことが効果的であったと考える。	専門基礎の科目であるため、より深い学習意欲を次回以降も高める講義を心掛けたい。基礎的事項と最先端事項をわかりやすく解説することを継続する。	
82	21346216	森林生態学Ⅰ	44	7	15.9	4.28	対面講義であったが、概ね講義についての評価は高かった。	基礎樹木学を兼ねるという授業の性格上、シラバスについての評価が低いが、2年後に科目再編予定。	
83	21346217	森林生態学Ⅱ	44	9	20.5	4.17	コロナ対策のため、ネット講義となった。そのため、双方向性が損なわれ、一部の項目で秋学期よりも評価が下がった。また、より進んだ学習内容をネットで学習することに対して、学習効率の低下が生じていたと判断された。野外の事象を学習する内容の科目のため、完全リモートでは学習効率が低下することは避けたい。	来年度は、実習科目の効果的な実施が望まれる。	
84	21346301	森林資源環境モニタリング論	24	5	20.8	4.3	昨年度と比べて、共-3の点数が向上した。	来年度から1単位に変更となるので、授業内容についてさらに精査したい	
85	21346322	森林砂防測量学	18	5	27.8	4.42	アンケート数（5）が低いので何とも分析しづらいが、あえて分析するとすれば、以下の2点となる。 ①概ね科目群全体平均を上回っている。 ②【共-3：主体的学修】と【共-221 学修意欲】の2項目が科目群全体平均と比較して、やや低い評価である。	【共-3 主体的学修】及び【共-221 学修意欲】の2項目について、受講学生の興味が発火されるような要素をもう少し意識して講義を実施する。	
86	21346323	森林資源・山村経済学	14	4	28.6	4.4	学修意欲「この授業内容についてより深く学びたいか」以外の項目については、科目群平均を上回っており、質の高い授業を提供できたものと考ええる。一方で、アンケートの回収率は28.6%を低かった。新型コロナウイルス感染症の影響で、最終授業が急遽オンラインに切り替わったことが回収率にも影響を及ぼしている可能性が高い。	本講義は木材流通や山村社会に関する社会科学分野の講義であるが、自然科学分野の研究室の学生も受講している。自由記述欄では「発表形式の授業があったことで、積極的に関連する内容について調べることができた」との回答があった。そのため、今後も発表形式の授業も取り入れながら、専門が異なる受講生たちが関心を持てるような授業を心がけたい。	特になし

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
87	21346324	樹木学	32	12	37.5	4.05	各項目とも科目群平均とほぼ同じ評価であったが、「自分で学習した」「深く学びたいか」についてはやや低かった。この傾向は昨年度も同様であり、学生が自ら積極的に学ぶ意欲が低下していることを示しているのかもしれない。これは科目群平均も同様であると思われる。 「学生と教師とのやりとりは双方向性があった」についてもやや低い。教員の準備や熱意の評価は学生の意欲への評価よりも高いことと合わせて考えると、「意欲のない学生が双方向性を求めている」という状況が伺え、学生がより受け身になっていると考えられる。アクティブラーニングを取り入れるなどの工夫をする一方で学生がよりお膳立てを期待するというフィードバックがかかるという心配はないだろうか。 アンケートの回収率が低いことも懸念事項の一つである。授業中においても与えた課題をやらない、成績に直結する小テストすら受験しない学生が多くいた。何もしくなくても卒業できるという意識が蔓延している雰囲気を感じる。また、その様な状況に対応するために学生に連絡を取ろうとしても返信がないなど授業する以前に考えなければならぬことが多くあると思う。	テストを受け、合格点に達しないと単位が与えられないことなどを講義のはじめに何度も説明する。	
88	21346333	森林機能制御学演習	11	2	18.2	4.75	すべての項目で4以上の評価を得ており、講義内容としては良かったと言える。	次回以降も今年度と同様の対応をとっていく。	
89	21347201	動物生産科学概論	36	14	38.9	4.34	学部の動物生産科学教育コースの教員によるオムニバス形式の講義である。アンケート回収率は依然とかわらず低値であったので、分析結果の精度は高くない捉えている。いずれの項目も概ね科目群平均値前後であり、標準的な評価であった。「学ぶべき重要な目標を明確に示した」と「双方向性があった」の2項目は改善が必要と考えられた。	オムニバス形式の講義形態からして改善は容易ではないが、少なくとも先ず、回収率の向上が第1である。今年度は講義の最終回、試験実施後に行なった結果がこれであるので、来年度は別のタイミングで実施したい。「双方向性の低さ」に対しては特にアイデアがないが、各担当教員の対応如何で改善する項目ではあろう。	
90	21347204	無脊椎動物学	51	21	41.2	4.68	全項目で平均点を上回っており、概ね良好な評価であった。	自学を喚起するような取り組みを来季は少し組み込みたい。	
91	21347205	魚類学Ⅰ	31	28	90.3	4.43	全ての評価項目で科目群平均以上の得点となっていること、また難易度、説明のわかりやすさ、授業への準備、授業への熱意、総合評価で特に高い得点となっていることから、学生目線に立った授業が実施されたことと自己評価できる。	授業での双方向性に関して、より意識して取り組む。	
92	21347206	魚類学Ⅱ	31	14	45.2	4.29	アンケート回収率が50%未満だったので、明らかに悪意のある回答者の影響が若干出ているが、全体的に授業の満足度が高いと感じている。	主体的学修に関して、もう少し意識を高められるような工夫が必要だと考える。	特になし
93	21347207	動物学Ⅰ	37	16	43.2	4.14	動物学Ⅰ、およびⅡの満足度はそれぞれ、4.3、4.6であり、学生の評価もまずまずである。ただし、双方向のやり取りが不十分との意見が幾つか見られた。	今年度で退職です。 有難う御座いました。	
94	21347208	動物学Ⅱ	35	14	40	4.43	動物学Ⅰ、およびⅡの満足度はそれぞれ、4.3、4.6であり、学生の評価もまずまずである。ただし、双方向のやり取りが不十分との意見が幾つか見られた。	今年度で退職です。 有難う御座いました。	
95	21347209	飼料・草地学Ⅰ	52	19	36.5	4.47	全ての項目で科目群平均を上回ったため、概ね講義目標は達成だったと考える。	学生と教員とのやりとりには双方向性があったの評価が低い学生がいたので、次回の講義はより双方向性を意識し講義に取り組みたい。	
96	21347210	動物生理学Ⅰ	40	15	37.5	3.53	履修登録者40名中、15名が回答した（37.5%）。例年の対面授業では授業時間中にアンケート回答時間を設けるため80～90%の回答率である。しかし今回は冬学期が遠隔授業であり、遠隔試験後にMoodleでアンケート協力依頼を掲載したため、回答率が低かった。アンケート結果は全体の評価を十分に反映しないものの、回答した学生の中ではおおむね3.8～4.5の項目が多かった。「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」（3.8）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」（3.9）の項目は低いスコアであった。これらの項目は農学部全体の平均でも格段に低かったことから、遠隔授業にともなう双方向性の確保や勉学意欲の刺激向上の難しさが反映されている。	遠隔授業ではアンケート回収率の低さが大きな課題である。Moodle掲示ではなくライブ配信の授業中に記入時間を設けることで回収率の向上が期待される。双方向性については、Moodleの質疑応答欄の活用がほとんどなく、また講義科目のため双方向性の機会がなかったことが反省点である。対面授業・遠隔授業にかかわらず、毎回の授業で感想や疑問点を提出させ、次回の授業でそれらに回答することで、双方向性や学ぶ意欲の向上を図りたい。	
97	21347211	動物生理学Ⅱ	39	14	35.9	4.25	履修登録者39名中、14名が回答した（35.9%）。例年の対面授業では授業時間中にアンケート回答時間を設けるため80～90%の回答率である。しかし今回は冬学期が遠隔授業であり、遠隔試験後にMoodleでアンケート協力依頼を掲載したため、回答率が低かった。アンケート結果は全体の評価を十分に反映しないものの、回答した学生の中ではおおむね3.8～4.5の項目が多かった。「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」（3.8）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」（3.9）の項目は低いスコアであった。授業を行った教員がIとIIで異なったが、項目の点数は両方でほぼ同じであり、農学部全体平均とも類似していたことから、遠隔授業にともなう問題であると判断できる。	冬学期の後半から急速遠隔での授業となったため、記入時間を設けて実際に入力してもらうことが難しかった。双方向性については、Moodleの質疑応答欄の活用がほとんどなく、また講義科目のため双方向性の機会がなかったことが反省点である。毎回の授業で感想や疑問点を提出させ、次回の授業でその疑問に答えるなどで、双方向性や学ぶ意欲の向上を図りたい。	
98	21347212	水族生理生態学Ⅰ	41	14	34.1	3.81	講義の内容が多少難しいと感じた学生が多いことがわかった。コロナ禍でもあり双方向性の授業が行いにくい状態だったため、その点に不満を感じた学生も多かったことがわかった。講義内容を通じて、自発的に学習したいという学生がいた事は良い傾向であった。	講義内容をよりわかりやすくするために、具体的な動画などを加えていきたい。また小テスト回数なども増やして理解度UPを目指していきたい。	

令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価の分析	次回講義への対応	その他
99	21347213	水族生理生態学Ⅱ	50	17	34	4.5	いずれも科目群平均を上回っている。「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」や「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」については4.2であり、相対的には高い値であったが、多くは「そう思う」であり、「強くそう思う」という学生が少ないことを示している。	「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」や「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」についても改善の余地があると考えられる。講義やレポートの内容などについて、引き続き検討したい。	
100	21347214	動物組織学Ⅰ	44	17	38.6	4.12			
101	21347215	動物組織学Ⅱ	43	18	41.9	4.24			
102	21347216	動物行動生態学Ⅰ	70	21	30	4.55	概ね、全ての項目で、科目群平均を上回っており、講義の質は学生のニーズに十分に答えることができたとして自己評価している。唯一、科目平均を下回ったのは、教員・学生間の双方向性で、コロナ禍でのE-learningでの講義としたことが双方向性不足の原因と考えている。	特段、改善する予定はない。対面か、遠隔かで、双方向性の部分は対応が変わるが、次年度も遠隔実施の場合は、双方向性改善のための工夫を取り入れたい。	
103	21347217	動物行動生態学Ⅱ	52	18	34.6	4.23	概ね良好だが、オンライン授業の難しさが出た。	学修意欲の少ない学生が見られたので、日常行動などと関連付けて説明し、行動学の学修意欲を増やせるように取り組みたい。	
104	21347218	藻類学Ⅰ	33	14	42.4	4.3	新カリキュラムから1単位科目の「藻類学Ⅰ」「藻類学Ⅱ」と変わり、さらに藻類学Ⅰは2年生が対象ということで、旧カリキュラムで3年生を対象としていた「藻類学（2単位科目）」を単純に2分割した内容というよりは、授業内容を組み替えて望んだ。これまでは水産科学分野、あるいは理学部生物学科所属の学生を相手にしていたため水圏生物である「藻類」にそこまで苦手意識はなかったと思うが、アニマルサイエンスを希望している学生にとっては、なぜ藻類などを学ばないといけないのかと受講意欲の低さが気になっていた。「藻類学」というのは基礎的な学問ではなく、生物学を「脊椎動物」「陸上植物」を基準に学んできた学生にはとっつきにくい分野だということ再認識した。科目総平均を下回る項目がなかったのは好材料であったと前向きに捉えたい。	当該科目に限らず主体的学修、学修意欲の低さが目立つように感じられる。そこを改善できるよう、自ら調べてまとめる課題の取り入れ、あるいはこの学問分野でホットな話題を提供することにチャレンジしたい。最終的には総合的な満足度が高い講義となるよう講義内容の改善に努めたい。	授業アンケートの回答率が低く、全体平均の足を引っ張っているのので、講義中にアンケートに回答させるなどの工夫をしたい。
105	21347219	水族生化学Ⅰ	35	13	37.1	4.33	多くの質問項目について、評価が科目群平均を上回っていた。ただし、授業の双方向性の評価は低かった。今回は、遠隔キャンパスからの受講生がいることを考慮してリモート形式としたことが影響したかもしれない。	双方向性を改善するための、授業時間内に質問・回答のセッションを設ける。	
106	21347220	動物発生学Ⅰ	33	14	42.4	3.4	授業の難易度が高く、進行スピードが遅いとの意見が多い。	学習範囲・内容を踏まえると難易度や進行速度を変えることは困難であるため、配布資料の改善や質問対応により、理解度を高める。	
107	21347307	草地学	30	22	73.3	3.93	学生との意思疎通に欠けている面があった。現地見学以外の講義をリモートで行った影響も大きいと思われる。	来年度から講義の形態が変更になるが、学生の自主的な学修意欲を喚起するよう双方向でのやりとりを増やしたい。	
108	21347308	畜産食品化学工学	24	20	83.3	4.13	アンケート回収率は約83%と大きく向上したことから、「講義への対応」に掲げた取り組みが実ったと考えられる。。また、いずれの項目も科目群平均値とほぼ同じであることから、平均的な講義であったと判断される。	講義資料の配布を希望するコメントが1件あった（必要な場合は配布（Moodleに貼り付け）したが、不十分と感じた学生がいたと解釈した）。配布回数を増やすことで対応したい。資料は基本的に配布しないことをガイダンス時に説明しているが、その趣旨をさらに明確に説明することで、講義に集中する姿勢を求めたい。	
109	21347309	生物統計解析	32	24	75	4.06	授業の難易度は3.9(平均4.1)、双方向性3.8(平均3.9)、授業に十分準備4.1(平均4.5)、熱意(平均4.5)と低かったが、他は平均かそれ以上であった。	今回の評価をもとに、授業の準備と熱意等を重点的に改善したい。	
110	21347322	水族生化学	20	14	70	4.17	評価はおよそ科目群平均と同程度であったが、双方向性の低さと主体的学習の触発度の高さが目立った。基本的に対面で行った講義なのに、双方向性が低かった点は反省すべきである。	双方向性を高め、学生の理解度を正しく把握するために、講義内に学生への質問によるQ&Aセッションを設ける。	
111	21347324	浮遊生物学	58	47	81	4.32	総じて平均より高い評価だった。唯一「共：68 教員は、授業に十分準備して臨んでいた」が4.4と平均の4.5を回った。これは講義の最初に前回講義の質問に答える「質問コーナー」を設けており、この時間が長引いて時間が足りなくなってしまうことがあったからだと思われる。	「質問コーナー」は必要と考えているので、継続したい。その他の項目に関連した点についても継続していきたい。また回収率が低くはないが81%だったため、一昨年と同じレベルの90%以上を目指したい。	
112	21347326	水産増殖学	14	8	57.1	4.39	全ての項目で平均が4以上であり、こちらの意図は学生に伝わっていると考えている。特に、主体的学修と学修意欲の欄が、科目群平均との比較で高得点なのは評価できる点だろう。	着任時期との関連で、シラバスの作成・公開がスムーズに行かなかった。これは次年度は改善する。	特になし。
113	21347328	海洋資源化学	28	23	82.1	4.31	コロナ禍であったことも影響していると思われるが、双方向性に関する項目の評価が低かった。全体的には平均もしくはそれ以上の評価であった。	授業の難易度に関する項目の評価が少し低かったので、専門的な内容に関しては丁寧に分かりやすく説明する必要がある。	
114	21349011	Applied Cell Biology	11	0	0	0	The course dis not receive any responses from students. (No special comments)	To remind the students to do the evaluation. Or ask them to spend a few minutes in class to do it.	
115	21349052	Core Seminar	16	7	43.8	4.02	全体的に科目群の平均を下回る評価であった。特に、「毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「教員の説明はわかりやすかった」の評価が低く、次回講義の改善が必要である。本科目は基本的に施設見学であるが、新型コロナの影響で入国できていない学生もいて、遠隔で代替した。実際の施設を前にして説明する場合に比べて、コミュニケーションが取りにくく説明が分かりにくかったと思われる。	対面での講義が可能になりつつあるので、従来通りの施設見学が出来ることを望むが、遠隔で行う状況も考えられるので、説明が理解しやすくなるように資料を改善するなどの対応を行う。	



令和3年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
117	21349054	Analytical Chemistry	12	3	25	4.11	Generally responses were positive apart from all 3 respondents stating that they were neutral or disagreed about the level of the course being appropriate. Though two said explanations were clear and easy to understand, but one also felt explanations were hard to understand. The response rate was less than average at 25%, so it is difficult to know if the whole class felt this. Certainly in other surveys about exactly the same course taught in the same year or in previous years, students felt the class level appropriate so this may be an issue for these particular students. The course is quantitative and requires logical thinking which some students do find more challenging.	Since some students are finding the course a challenge I will reduce some of the more advanced content to allow a longer time for slower paced explanations.	
118	21349055	Basic Ecology	12	3	25	4.48	オンラインでの講義であったせいか、アンケートの回収率が低く評価が難しいが、ほぼすべての項目で4.3-4.7と高い満足度を得た。授業の難易度については1名の評価が低く、検討の余地があると思われる。自分で作成した講義録画を用いたオンデマンド講義形式で行ったが、zoomでのアクセスを毎回取り入れ、質問をオンタイムで受け付けたため、学生と教員とのやりとりの双方向性を確保することができたと思われる。またクイズへの回答と説明、レポートに対しての応答、議論を一人ずつきめ細かく行うことで、学習意欲を高めることができたと思われる。	難易度については、授業期間中に簡易なアンケートをとることで確認していく。双方向性については少人数の講義である利点を活かし、一人ひとりの興味に寄り添ったトピックスの取り入れなどを通じ、引き続き、主体的な学習意欲の向上を促進する。	
119	21349057	Population Biology and Ecology	10	3	30	4.4	アンケートの回収率が低く評価が難しいが、ほぼすべての項目で4.3-4.7と高い満足度を得た。一方、授業の難易度について1名からの評価が低く、難易度について検討が必要であると思われる。最も心配していた双方向性については、オンデマンドでの講義ビデオの配信に加え、zoomでのアクセスを毎回取り入れ、質問をオンタイムで受け付けたため、学生と教員とのやりとりの双方向性を確保することができたと思われる。クイズで間違った問題についての解説やレポートについて、一人ひとりに対し細かく応答することは、学生の主体的な学習意欲の向上に効果的であったと思われる。	難易度については、授業期間中に簡易なアンケートをとることで確認していく。双方向性については、引き続き少人数の講義である利点を活かし、一人ひとりの興味に寄り添い、主体的な学習意欲の向上を促進する。	
120	21349058	Physiology	11	4	36.4	4.56	The students showed positive response to our course. Half of the categories got high points (4.8 out of 5) especially regarding the motivation of the study.	The difficulties/ level of the course could be modified a bit based on the different background of the students.	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったものを除く。）